

きた まえ い せき
北の 前 遺 跡

(B区)

平成 25 年 6 月

宇都宮市教育委員会

序

宇都宮市の北西部、上戸祭付近は、釜川によって開けた低地を中心に田園風景が広がっていましたが、宅地化の進行、さらに宇都宮北道路の工事によって、その姿を大きく変えつつあります。この北の前遺跡に隣接する前田遺跡では、昭和62年～63年にかけて宇都宮市教育委員会により記録保存のための発掘調査を実施し、古墳～奈良時代の大規模な集落跡が確認されました。

今回発行となった北の前遺跡は、前田遺跡と隣接した北部に位置します。株式会社むぎくらの宅地造成に先立ち、埋蔵文化財の取り扱いについて、事業者と協議をいたしました。その結果、遺構保存が行えない道路部分に関して記録保存を目的とした発掘調査を実施しました。調査によって竪穴住居跡、掘立柱建物跡を確認することができました。これは当時の北の前の集落展開を知るうえで非常に貴重な資料を得ることができたものと考えております。

本報告書は、発掘調査で得られた成果をまとめたものであり、多くの方々が多方面におかれまして、広く活用していただけますことを期待するものであります。

最後になりましたが、埋蔵文化財の取り扱い協議から発掘調査、そして報告書作成・刊行に至るまで多大なるご協力とご理解をいただきました関係各位、関係機関並びに終始ご協力いただきました地元関係各位に対しまして、厚く御礼申し上げます。

平成25年6月

宇都宮市教育委員会

教育長 水 越 久 夫

例 言

1. 本書は、橋本県宇都宮市上戸祭町字北の前に所在する「北の前遺跡（B区）」の掘削文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、株式会社むぎくらによる宅地造成に伴うもので、同社の依頼により宇都宮市教育委員会を調査主体者とし、調査実務は株式会社日本商業史研究所がこれにあたった。
3. 調査は、平成25年1月5日～同年2月11日まで野外調査を実施し、その後同年6月30日まで整理・報告書作成作業を行った。
4. 野外調査は水野順敏が担当し、報告書作成作業も行った。遺物整理・編集作業は鈴木智子の協力を得、遺物の写真撮影は三輪孝幸が行った。
5. 調査組織

調査主体者・宇都宮市教育委員会

調査実務者・株式会社日本商業史研究所

水越 久夫 教育長

代表取締役 菅間智代

赤石澤 亮 文化課長

調査担当者 水野順敏（日本考古学協会々員）

宮川 努 文化財保護グループ係長

今平 利幸 文化財保護グループ

石川 和弘 同上

6. 調査記録及び出土遺物は宇都宮市教育委員会が保管する。
7. 野外調査から整理・報告書作成作業において下記の方々よりご助力とご指導を賜った。ご芳名を記して謝意を表する。（敬称略、順不同）

むぎくら、㈱大藤工業、初つき酒屋、㈱ダイショウ、宇都宮市立上戸祭小学校、石塚利雄、大澤伸啓、近藤真左夫、須田浩太郎、別井要三、山口耕一、山下守昭、吉田博行

参加者

入江 明江、小高真理子、篠崎 安子、藤原 信子、菅野 繁、住谷 昭、長谷川純司、鈴木 智子

凡 例

1. 本遺跡の略号は、U-KNM-Aで、遺物の注記はこれによる。また、遺構の略号は、SI（竪穴住居跡）、SB（掘立柱建物跡）、SK（土坑）、SX（性格不明遺構）、P（小穴）、PT（住居跡柱穴）である。
2. 第1図は、今平昌子『北の前遺跡中・近世編』2001 橋本県教育委員会・（財）とちぎ生涯学習文化財団刊の第319図を複製加筆したものである。第2図は国土地理院発行の2万5千分の1地形図『大谷』、『宝積寺』、『宇都宮西部』、『宇都宮東部』を部分複製し加筆した。
3. 遺構実測図の縮尺は、掘立柱建物跡が1/80、他はいずれも1/60、遺物実測図は1/3に統一したが、写真図版は統一していない。
4. 遺構図面上の北の方位は、座標北を示す。断面図の水準線の数値は、海拔標高を示す。
5. 挿入の遺物番号は本文中及び写真図版の番号と合致する。写真図版は○・□の角が挿入番号、後が遺物番号である。
6. 遺構図面・遺物図面で使用したスクリーントーンは以下の通りである。



焼土・烧面



カマド構築材粘土



凝灰岩



黒色処理



カマドの範囲



石器自然面

目 次

序	
I はしがき	2. 掘立柱建物跡…………… 39
1. 調査に至る経緯…………… 7	3. 土坑…………… 40
2. 遺跡の位置と環境…………… 7	4. 小穴…………… 45
3. 歴史的環境…………… 9	5. 性格不明遺構…………… 45
4. 調査の経過と調査の方法…………… 9	6. 調査区内出土遺物…………… 49
5. 基本層序…………… 11	III まとめ
II 遺構と遺物	1. 土地利用の変遷…………… 50
1. 竪穴住居跡…………… 13	2. 遺構・遺物の特徴…………… 51

表 目 次

第1表 周辺遺跡一覧	第4表 小穴計測表
第2表 住居跡出土遺物観察表	第5表 調査区内出土遺物観察表
第3表 土坑・性格不明遺構出土遺物観察表	第6表 網物錘石計測表

挿 図 目 次

第1図 調査区の位置と周辺の遺構分布図	第19図 SI-07・カマド
第2図 遺跡の位置と周辺遺跡	第20図 SI-09
第3図 基本土層図	第21図 SI-10・11
第4図 調査区全体図	第22図 SI-13・カマド
第5図 SI-01	第23図 SI-14
第6図 SI-02カマド	第24図 SI-06出土遺物
第7図 SI-02	第25図 SI-07出土遺物
第8図 SI-03・カマド	第26図 SI-09出土遺物
第9図 SI-04・カマド	第27図 SI-11出土遺物
第10図 SI-01出土遺物	第28図 SI-10出土遺物
第11図 SI-02出土遺物(1)	第29図 SI-13出土遺物
第12図 SI-02出土遺物(2)	第30図 SI-14出土遺物
第13図 SI-03出土遺物	第31図 SK-02・13, SX-02・03, P-49出土遺物
第14図 SI-04出土遺物	第32図 SB-01～05
第15図 SI-05・カマド	第33図 SK-01～09
第16図 SI-05出土遺物(1)	第34図 SK-10～17, SX-01～03
第17図 SI-05出土遺物(2)	第35図 調査区内出土遺物
第18図 SI-06・カマド	

図版目次

- 図版1 A. 調査区遠景(東より) B. 調査区近景(東より) C. 調査区近景(南西より) D. 調査区近景(南東より)
- 図版2 A. 東側調査区(北より) B. 東側調査区(南より) C. 北側調査区(東より) D. 北側調査区(西より)
- 図版3 A. 南側調査区(東より) B. 南側調査区(西より) C. 南側調査区西半(北東より) D. 南側調査区西半(北西より)
- 図版4 A. SI-01完掘(北より) B. SI-01西半部土層(南より) C. SI-01北西隅出土土器(西より) D. SI-02完掘(南より) E. SI-02西半部土層(南より) F. SI-02カマド確認時(南西より) G. SI-02カマド土層(西より) H. SI-02カマド掘方(南より)
- 図版5 A. SI-02-P1出土土器(南西より) B. SI-03完掘(南より) C. SI-03東西土層(南より) D. SI-03カマド東半部完掘(南より) E. SI-03カマド掘方・土層(南東より) F. SI-03南東隅出土土器(南より) G. SI-04完掘(南より) H. SI-04西半部土層(南より)
- 図版6 A. SI-04カマド確認時(西より) B. SI-04カマド掘方(西より) C. SI-05完掘(北より) D. SI-05土層(西より) E. SI-05カマド確認時(南より) F. SI-05カマド土層(南西より) G. SI-05カマド完掘(南より) H. SI-05カマド掘方(南より)
- 図版7 A. SI-05南西部出土土器(南より) B. SI-05床下の土層(南西より) C. SI-06完掘(北より) D. SI-06掘方(北より) E. SI-06カマド土層(西より) F. SI-06カマド掘方(南より) G. SI-06北東隅床下(東より) H. SI-07完掘・土層(北より)
- 図版8 A. SI-07カマド確認時(南より) B. SI-07カマド土層(東より) C. SI-07カマド完掘(南より) D. SI-07カマド掘方(南より) E. SI-09・SK-09完掘(南東より) F. SI-09・SK-09土層(西より) G. SI-10・11完掘(北より) H. SI-10完掘(西より)
- 図版9 A. SI-11完掘(東より) B. SX-02(旧SI-12)完掘(北より) C. SI-13完掘(南より) D. SI-13カマド確認時(南より) E. SI-13カマド完掘(南より) F. SI-13カマド掘方(南より) G. SI-14完掘(南より) H. SI-14掘方(南より)
- 図版10 A. SK-01完掘(西より) B. SK-01土層(北より) C. SK-02完掘(南より) D. SK-02土層(北より) E. SK-03完掘・土層(南より) F. SK-04完掘・土層(北より) G. SK-05完掘(南より) H. SK-05土層(西より)
- 図版11 A. SK-06・07完掘(南西より) B. SK-08完掘(南より) C. SK-13完掘(南より) D. SK-13土層(西より) E. SK-14完掘(南より) F. SK-14土層(南より) G. SK-16完掘(南より) H. SX-01(南より)
- 図版12 住居跡出土遺物(1) SI-01・02・05
- 図版13 住居跡出土遺物(2) SI-03・05
- 図版14 住居跡出土遺物(3) SI-05-07・11・14, 土坑・小穴出土遺物SK-13, P-49
- 図版15 調査区内出土遺物

I はしがき

1. 調査に至る経緯

宇都宮市上戸祭町264-1他に所在する、株式会社むぎくら所有地(約2,700㎡)に対して宅地造成が計画された。当該地は北の前遺跡(県遺跡番号2260 古墳～中世 集落跡)と呼ばれる周知の遺跡である。また本遺跡の北東では、マンション建設に伴い、平成8年に宇都宮市教育委員会(以下市教委)によって調査され、竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡1棟など古代～中世にかけての遺構が調査された。また、南側に隣接する前田遺跡では、上戸祭小学校の建設に伴い、昭和62年～63年に約15,000㎡が市教委によって調査され、古墳～平安時代の住居跡161軒、掘立柱建物跡98棟などが調査された。

今回の調査箇所は、上戸祭小学校建設に伴う調査が行われた前田遺跡に隣接しているため、遺構が確認される可能性は高かった。そこで、平成24年10月11日、12日に市教委が確認調査を行った。調査の結果、竪穴住居跡6軒が確認され、土器片数点が出土したほか、掘立柱建物と考えられる遺構や、土坑、溝跡等が確認された。

この確認調査の成果をもとに、事業者である株式会社むぎくらと協議した結果、開発区域内の道路予定地部分の約500㎡に対し、発掘調査が必要となり、市教委を調査主体者とし、調査実務は事業者の依頼を受けた株式会社日本歴史研究所がこれにあたることとなった。

発掘調査の対象面積は約500㎡で、調査期間は平成25年1月5日～同年2月11日である。この間、1月7日、2月1日には、市教委による立会いを受け、2月13日には仮設の撤去を完了し野外調査をすべて終了した。

2. 遺跡の位置と環境

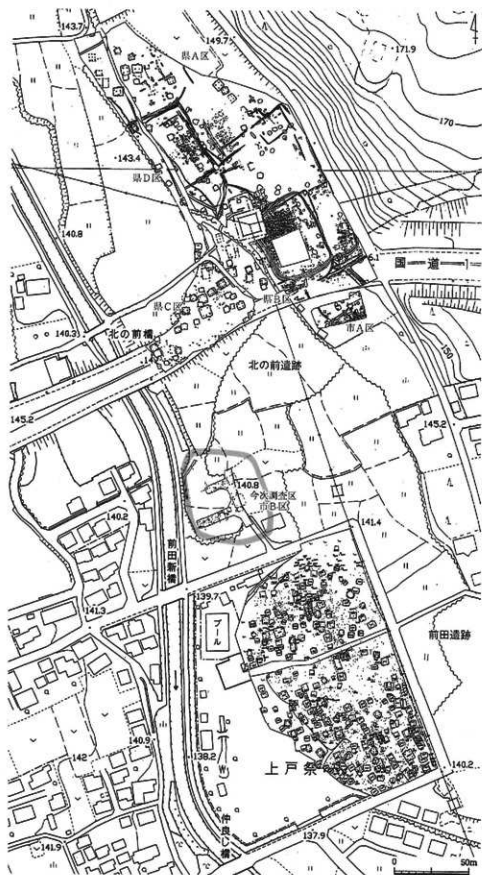
遺跡は栃木県宇都宮市上戸祭町字北の前に所在し、市街地の北西約4kmの水田地帯に立地する。

宇都宮市は栃木県の中央部に位置するとともに、関東平野の北端にあたり、日光山地を源とする鬼怒川・大谷川・黒川などが形成する複合扇状地の扇端部に立地している。この為山地から平野部への転換点にあたり、市域の北～北西部は山地が見られるが、南側では平地が広がっている。

また、市域を南流する鬼怒川・田川・姿川などによって、岡本台地、田原台地、宝木台地などが形成されている。旧上河内地内の高館山付近より市内中心部の八幡山公園に向かって標高160～200m程の宇都宮丘陵が南北に延びており、この宇都宮丘陵は市内瓦谷町付近で一時的に東流する田川に北部と南部に分断されている。宇都宮丘陵南部は東側に田川、西側に釜川が南流しており、丘陵周辺には両者によって形成された田川低地が広がっている。この丘陵の基盤は第三紀中新世の凝灰岩や砂岩などから成り、丘陵上にはローム層が堆積している。基盤の凝灰岩は比較的柔らかく、長岡石とも呼ばれており、付近には随所に露頭が見られ、「県指定史跡長岡百穴古墳」もこの岩盤に掘り込まれていたものである。

本遺跡は宇都宮丘陵南部の西側に所在し、丘陵裾部から釜川右岸に広がる緩斜面に立地している。遺跡は過去の調査成果から南北約350m、東西約150mと広大な範囲を占めると判断されるが、今次調査区はその南端の標高140m程の斜面地に位置する。市道を隔てた南側には上戸祭小学校が所在し、周辺は宅地化が進んでいるが調査区付近は水田が広がり、一部休耕田として果樹園、貸農園として利用されている。

交通的にはJR東日本宇都宮駅の北北西約4.3km、東武鉄道宇都宮駅の北方約3.6kmに位置し、調査区の西方約350mに国道119号線(日光街道)が、北方約200mには宇都宮環状線及びこれより分岐する宇都宮北道路が通っている。



第1図 調査区の位置と周辺の遺構分布図 (1 : 2,500)

尚、この宇都宮環状線及び宇都宮北道路の建設に伴い、平成3～5年度にわたって「北の前遺跡」の発掘調査が実施された。約26,000㎡を調査し、縄文時代から中・近世にわたる遺構・遺物が確認された(後述)。

さらに、南側に隣接する上戸祭小学校の建設に際しては「前田遺跡」として約15,000㎡が調査され密度の高い古代の集落跡が確認されている(後述)。本調査区とこの前田遺跡との間には釜川水系の小支谷(埋没谷)の存在が確認されておりこれを両遺跡の境としている。

3. 歴史的環境

本遺跡の周辺には第2図、第1表に示す如く多数の遺跡の存在が知られている。

遺跡の北方約3.5kmには弥生時代の標識遺跡として著名な野沢遺跡(6)がある。また、丘陵上には県指定史跡の大塚古墳を中心とする大塚古墳群(19)、市指定史跡の瓦塚古墳群(16)、谷口山古墳群(15)、御蔵山古墳を含む八幡山古墳群(23)などの他多数の古墳群の存在が知られる。さらに、東方約1.3kmには県内最大級の横穴墓群として知られる県指定史跡長岡百穴古墳(14)が凝灰岩の露頭に穿たれている。

該期の集落跡は丘陵裾と東側の田川沿い、もしくは西側の釜川沿いに分布する。殊に調査区の南に隣接する前田遺跡(2)は、前述の如く約30,000㎡の広大な遺跡のうち約15,000㎡が調査され、古墳～平安時代にわたる竪穴住居跡161軒、掘立柱建物跡98棟などが確認された。また、北の前遺跡(1)においても、北方約100mの道路建設に伴う県埋文センターの調査では古墳～平安時代の竪穴住居跡88軒、掘立柱建物跡15棟などの他、中・近世の遺構・遺物が調査された。さらに北方約180mではマンション建設に伴う市教委による調査によって古代の竪穴住居跡3軒の他、中・近世の遺構・遺物が確認されている。

また、釜川左岸の南方約700mに根河原瓦窯跡群(27)、南東1kmに水道山瓦窯跡群(28)、東方約600mに上戸祭大塚瓦窯跡(26)などの瓦窯跡が分布する。さらに、北方約2.4～2.6kmの田川右岸には広妻窯跡(24)、欠の上窯跡(25)など須恵器の窯跡が知られている。前記の前田遺跡においては瓦窯操業時期に集落が拡大したと考えられ、大塚瓦窯跡と同一の叩具文字の瓦が出土するなど両者の密接な関係が窺える。北の前遺跡においても、今次調査区、道路建設に伴う調査に際して瓦片が多数出土しており、関連性が想起されるところである。

4. 調査の経過と調査の方法

調査は株式会社むぎくらによる宅地造成に伴う調査である。切土工事によって埋蔵遺構に影響が出ると考えられる、道路・水路部分が調査の対象となった。安全対策上のセットバックや試掘結果を踏まえての再協議による減や追加部分による増などがあり、最終的な調査面積は500㎡程となった。

調査は平成25年1月3日に準備工に入り、同月5日より重機による表土削掘に着手した。当初の予想通り北側の調査区では現地表面下30cm程で遺構確認面に至ったが、南側では1.2m以上の深さとなっていた。同月7日より人力による遺構確認作業に入る。現地にて市教委と調査範囲の増減について協議する。8日重機による表土掘削を終了した。確認した遺構は、竪穴住居跡は基本的には十字、土壇、小穴は半載による土層の記録の後、完掘して写真・実測の記録を行った。写真記録は、35mm版の白黒・カラーリバーサルフィルムを使用、デジタルカメラで補足した。実測は手実測で調査区全体を縮尺20分の1で実測し、全体図等はこれを縮小した。カマドは縮尺10分の1で実測した。調査区の設定は世界測地系によるもので、調査区南西隅に原点をおき、X軸をローマ数字、Y軸をアルファベットで示した。1Aの座標値はX=65610、Y=2970である。尚、栃木県埋蔵文化財センター(以下埋文センター)の調査記録との合成は日本測地系に変



第2図 遺跡の位置と周辺道路 (1 : 25,000)

換して行っている。

調査は成人式寒波をはじめ数度の降雪による中断もあったが、同2月11日まで継続した。途中1月17・24日の両日は南に隣接する上戸祭小学校児童の見学があった。2月1日市教委文化課による終了立ち会いを受け、11日まで記録と補足調査を行う。同月13日仮設の撤去を終える。

調査の結果、堅穴住居跡12軒、掘立柱建物跡5棟、不明遺構3基、土坑17基、小穴約90基などを調査した。遺物は古墳時代後期から平安時代を中心とするも、一部縄文時代後期や中・近世の遺物も認められた。

整理・報告書作成作業は2月27日より着手したが、諸般の事情で一時中断を含め、同年6月末まで作業を行い、同年7月に調査報告書、遺物、記録類を市教委に移管し全ての作業を終了した。

5. 基本層序

今次調査区は斜面地で水田として利用されていた為、地形の改変が著しく、斜面上方の北側と下方の南側では堆積状況が大きく異なる。そこで、調査区北側と南側の2か所の図を示す。

Ia 黒色土（耕作土）締り弱い、水田として利用されていた

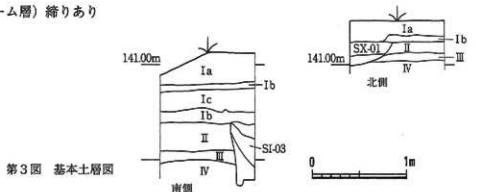
Ib 暗赤褐色土（水田床土）締り強い、酸化による赤化、二次以上にわたる所もある

Ic 黒色土（旧耕作土）締りあり、改田前の耕作土

II 黒褐色土（旧表土）締り粘性あり、SP径10～20mm、IP径1～5mm、ローム粒径1～2mm微量含む、遺物の包含あり。

III 暗褐色土（ローム漸移層）締り強い、SP径10～20mm、IP径10～20mm、ローム粒少量含む

IV 黄褐色土（ソフトローム層）締りあり

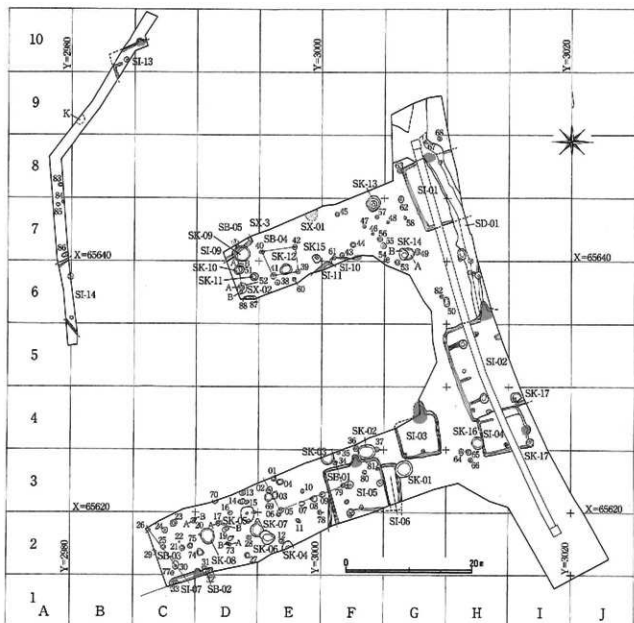


第3図 基本土層図

第1表 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	市番号	県番号	時期	種別	番号	遺跡名	市番号	県番号	時期	種別
1	北の前遺跡	465	2260	古～中・近	集落跡	15	谷口山古墳群	55	2353	古	古墳
2	前田遺跡	365	2261	古～奈	集落跡	16	瓦塚古墳群	54	2354	古	古墳
3	北原遺跡	49	2257	縄・古～平	集落跡	17	長岡百穴古墳	53	2357	古	横穴墓
4	上戸祭中ノ島遺跡	50	2258	縄・古	集落跡	18	大ジノ古墳群	58	2361	古	古墳
5	野沢石塚遺跡	31	2241	縄・弥	集落跡	19	大塚古墳群	57	2359	古	古墳
6	野沢遺跡	30	2239	縄～古	集落跡	20	山本山古墳群	68	3248	古	古墳
7	追越遺跡	464	2259	縄	集落跡	21	戸祭山兜塚古墳群	344	3249	古	古墳
8	桜畑遺跡	38	2335	縄・古	集落跡	22	祥雲寺境内古墳	345	3252	古	古墳
9	欠の上遺跡	39	2336	縄・古	集落跡	23	八幡山古墳群(御蔵山)	346	3253	古	古墳
10	瓦塚日調北久保遺跡	40	2339	縄・古	集落跡	24	広表窯跡	427	2334	奈・平	窯跡
11	宇都宮ゴルフ場遺跡	48	2251	縄・古	集落跡	25	欠の上窯跡	426	2337	奈・平	窯跡
12	田向遺跡	63	2365	縄・古	集落跡	26	上戸祭大塚瓦窯跡	366	2360	奈	窯跡
13	戸祭免田遺跡	71	3250	古	集落跡	27	根河原瓦窯跡群	64	7139	奈	窯跡
14	百穴裏遺跡	52	2356	縄・古	集落跡	28	水道山瓦窯跡群	65	3245	奈	窯跡
						29	入畑窯跡	66	3246	江	窯跡

(市番号は宇都宮市遺跡地図の番号と一致する)



第4图 調査区全体図

II 遺構と遺物

今次調査で確認した遺構は、古墳時代後期から平安時代にわたる竪穴住居跡 12 軒、掘立柱建物跡 5 棟、土坑 17 基、性格不明遺構 3 基、小穴約 90 基などである。遺物は古墳時代後期～平安時代の土師器、須恵器を中心に、墨瓦、石製品（砥石）なども見られた。さらに、少量ながら、縄文後期の土器片や石器、中・近世の土器、陶磁器片も認められた。

以下、各遺構毎に記載する。

1. 竪穴住居跡

竪穴住居跡は部分的なものも含め計 12 軒調査した。他にも確認当初、焼土、粘土、カマド部材の存在から竪穴住居跡かと推定されたものもあったが、壁溝や柱穴、床面などが確認できず、これらは性格不明遺構として報告する為、住居番号に欠番が生じたが、遺物、記録類の混乱を避ける為そのままとした。

SI-01

遺構（第 5 図，図版 4）

調査区の北東，7G・H，8G・H 区に位置し，東は調査区外に延びる。平面は東が調査区外に延び，中央部は南北に水路によって切られていて，明確にし難い。他の遺構との重複関係は無い。南北長は約 5.4 m，現存東西長は 4.3 m，本来は一辺 5.4 m の方形と推定される。推定主軸方位は N-21°-W である。壁は遺存状態の比較的良好な北西で現存高約 35cm でほぼ直立する。壁下には幅 15～20cm，深さ 5cm の壁溝が設けられており，本来はカマド部分を除き囲繞していたと考えられる。床面は粗掘り後ローム主体の土で整地されており，遺存部分は平坦で堅く締っていた。竪穴の内外より 4 口の小さな穴を確認したが主柱穴は不明である。カマドは調査区内では確認できなかった。しかし北辺の中央部が U 字溝と古い水路に切られていることから，既に切られてしまった可能性が高い。

埋積土は 2 層に大別され，ローム粒を多く含む層が主体であり，人為的埋没と推定される。南東部の埋積土中に炭化材の一部（痕跡に近い）が見られたが，他には認められず焼土等もなかったことから埋土中に混入したものと判断される。さらに北西隅で，土師器坏，甕等が出土したものの，これらも他所からの投棄と推定される。

遺物（第 10 図，図版 12）

出土遺物は土師器が主体で，坏，甕などがある。また北西の床面及び埋積土中より所謂網物鍬石と考えられる細長の礫が 4 点出土している（第 6 表）。

SI-02

遺構（第 6・7 図，図版 4・5）

調査区の南東部，4H・I，5H・I 区に位置し，東側は調査区外に延びる。中央部は南北に U 字溝と古い水路によって切れ，南辺は SI-04 と重複しこれに切られていた。

平面は上記の状況から明確にし難いが，南北長 7.6 m，現存の東西長 4.6 m で，カマドが北辺中央とすると東西長は 8 m 程と推定されるが断定は出来ない。一辺 7.5～8 m の方形と推定される。壁は遺存状態の良好な北側で現存高 27～30cm，ほぼ直立する。壁下には幅 20～25cm，深さ 10cm の壁溝が設けられており，カマド部分を除き囲繞していたと考えられる。また西辺の壁溝から東に向って延びる間仕切溝と考えられる

浅い溝が3か所に認められた。溝1は柱穴PT-1、溝3は同PT-2に取り付き、溝2は両者の中央よりやや南(溝3)寄りにあり長さ1m程で止る。幅8~15、深さ8cm程で、溝1と3は改修が見られた。床面はローム層中にあり、粗掘の後、ローム主体の土で整地されていた。ほぼ平坦で堅く締っていたが、全体的に斜面上方の北から下方の南に向かって緩やかに下降しているようである。また、南寄りでは5~8cm程の厚さで貼床の施工がなされていた。

竪穴内より9口程の小穴を確認したが、PT-1・2が主柱穴、PT-3・4は出入口の施設と推定される。また、PT-8・9は埋積土中で存在が確認でき後世の掘り込みと推定される。

カマドは北壁の中央に壁を南北120cm、東西100cm程の逆U字状に切り込み、白色粘土で構築されていた。また、焚口部の底部分には幅約27cm、厚さ約9cm、長さ約95cmの凝灰岩の切石が使用されていたが、いくつか折れた状態で遺存していた。一般にこれほどの石材を支える為には同じ凝灰岩の切石を使用する例が多いと思われるが、本跡ではその存在が確認されなかった。カマド内にはほぼ完形の鉢形土師器が倒位で遺存し、その中には火熱で赤化した粘土塊が詰まっていた。カマド中軸よりやや西に寄るものの、支脚として使用されたもので、原位置を保っていると判断される。さらに、このカマドの前面を精査したところ、旧いカマドの痕跡と見られる施設が認められた。改造によって上部が削平されたと考えられるが、左右の門柱と見られる柱状の凝灰岩の基部が掘り込み内に残されており、周辺には焼土の痕跡も遺存した。さらにその北側約65cmの中央やや西寄りにも掘り込み内に長さ14cm程の凝灰岩が認められ、支脚もしくは再度の改造の痕跡と推察される。

カマドの改造及び前記の間仕切溝の改修から建替え拡張の存在が知られるが柱穴・壁溝などからその範囲を明確にすることは出来なかった。

埋積土は7層に大別され、自然埋没と考えられる。

遺物(第11・12図、図版12)

出土遺物は土師器が主体で、石製品(砥石)や網物錘石も見られた(第6表)。土師器は坏、高坏、甕、瓶などがあり、PT-1周辺とカマド付近より略完形の坏、高坏が出土した。

SI-03

遺構(第8図、図版5)

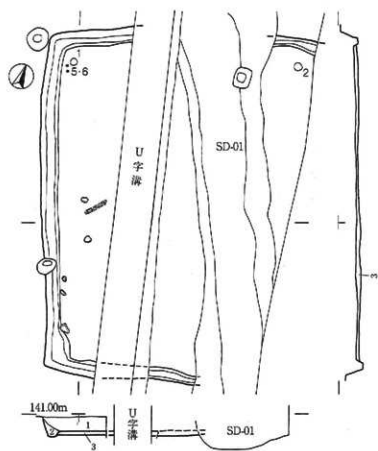
調査区中央やや東寄り、3・4G区に位置し、北西の一部が調査区外に延びる。重複関係は無い。

平面は南北長約3.6m、南辺東西長3.0m、北寄りの現存東長が約3.5mであることから、北がやや広がる逆台形と推定される。

壁は遺存状態の良高な北寄りで現存高約52cm、ほぼ直立するが上部はやや乱れる。なお、カマド煙道部の残存状態からすると竪穴の深さは75cm以上であったと推察される。壁下には壁溝が設けられ、幅15~25cm、深さ10cmで、カマド部分を除きほぼ囲繞していた。床面はローム層中にあり、粗掘りの後、黒色土混じりのロームで整地されていた。なお、南東、北東隅には床下の掘り込みが設けられていた。床面はほぼ平坦で、カマド前を中心に堅く締っていた。小穴は2口認められたが、主柱穴は確認できず、南壁際中央のPT-1は出入口の施設と考えられる。

カマドは北壁の中央やや東寄りに、長さ約95cm、推定幅約90cmの三角形に壁を切り込み白色粘土で構築されていた。袖芯や支脚などは認められなかった。

埋積土は7層に大別され、自然埋没と考えられる。



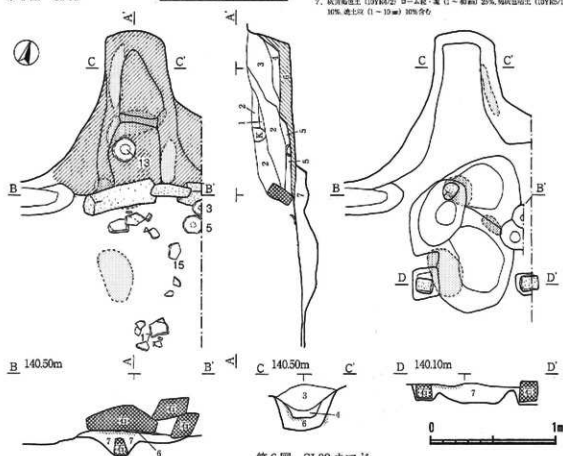
第5図 SI-01

SI-01

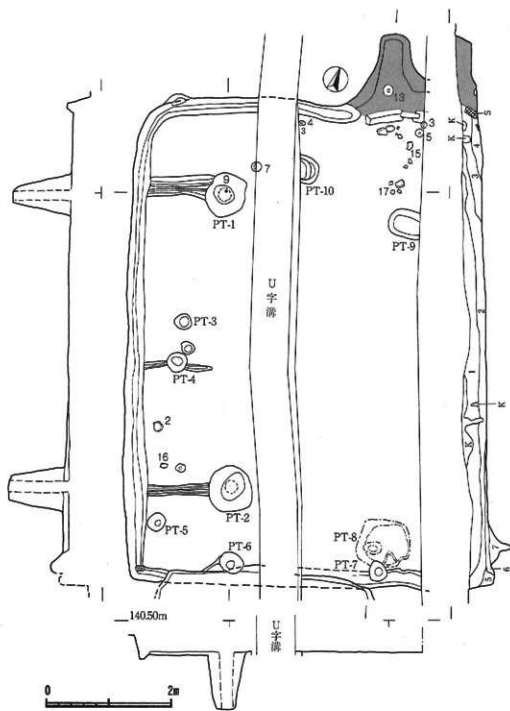
1. 黒褐色土 (IYR3/1) コーア層 (1-3m) 20%, 円礫 (15-30mm) 10%, 磁化物 (C-8m) 1%, 褐色土 (1-5m) 磁石含有
2. 黒褐色土 (IYR2/2) コーア層 (1-10m) 30%, 円礫 (15-30mm) 15%含有

SI-02 カマド

1. 黒褐色土 (IYR3/2) 黒褐色粘土 (IYR5/1) 20%, 焼土灰 (1-8m) 2%, 磁化物 (C-5m), 磁石含有
2. 黒褐色土 (IYR3/2) 黒褐色粘土 (IYR5/1) 20%, 焼土灰 (1-10m) 10%含有
3. 黒褐色粘土 (IYR5/1) 焼土灰 (1-10m) 25%, コーア層 (1-10m) 2%含有
4. 黒褐色土 (IYR3/2) コーア層 30%, 焼土灰 (1-10m) 5%含有
5. 赤褐色土 (IYR4/3) 黒褐色土 (IYR2/2) 20%, コーア層・焼土灰 (1-10m) 各5%含有
6. 灰褐色土 (IYR6/2) コーア層・灰 (1-35m) 30%, 黒褐色粘土 (IYR5/1) 10%含有
7. 灰褐色土 (IYR6/2) コーア層・灰 (1-40m) 25%, 黒褐色粘土 (IYR5/1) 10%, 焼土灰 (1-10m) 10%含有



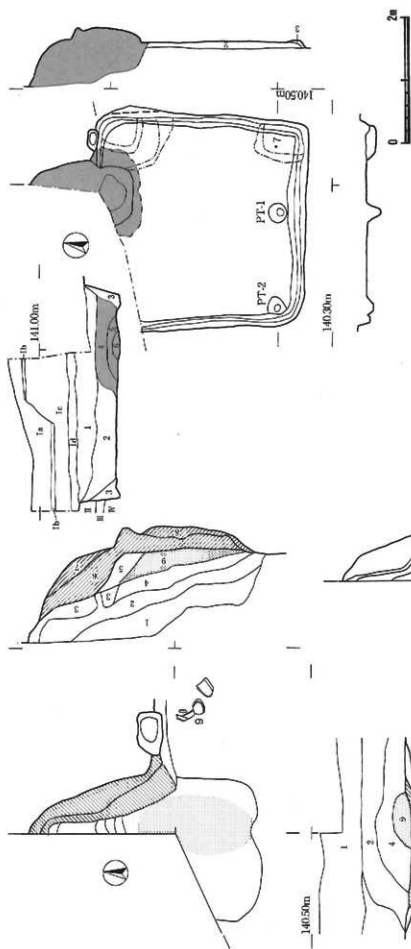
第6図 SI-02 カマド



9-02

1. 赤褐色土 (09Y23/2) 0-A層 (1-3m) 5%JP・SP (1-5m) 2%含砂
2. 赤褐色土 (09Y23/2) 0-A層 (1-10m) 15%JP・SP (1-5m) 2% 粘土層 (1-10m) 2%含砂
3. 赤褐色土 (09Y23/2) 0-A層 (1-8m) 15% 同層 (10-20m) 2% 粘土層 (1-10m) 25% 粘土層 (1-3m) 5%含砂
4. 赤褐色土 (09Y23/2) 0-A層 (1-10m) 10% 粘土・礫土層 (1-10m) 5%含砂
5. 赤褐色土 (09Y23/2) 0-A層 (1-10m) 20%JP・SP (1-10m) 5%含砂
6. 0-A層・礫土層・赤褐色土 (09Y23/2) 25%含砂・10%
7. 0-A層・礫土層・赤褐色土 (09Y23/2) 40%含砂

第7図 SI-02



SI.03

1. 胴部出土 (000422) 研削土
 2. 刃部出土 (000422) 研削土
 3. 刃部出土 (000422) 研削土
 4. 刃部出土 (000422) 研削土
 5. 刃部出土 (000422) 研削土
 6. 刃部出土 (000422) 研削土
1. 胴部出土 (000422) 研削土
 2. 刃部出土 (000422) 研削土
 3. 刃部出土 (000422) 研削土
 4. 刃部出土 (000422) 研削土
 5. 刃部出土 (000422) 研削土
 6. 刃部出土 (000422) 研削土

第8図 SI.03・カマド

SI.03A7F

1. 胴部出土 (000422) 研削土
 2. 刃部出土 (000422) 研削土
 3. 刃部出土 (000422) 研削土
 4. 刃部出土 (000422) 研削土
1. 胴部出土 (000422) 研削土
 2. 刃部出土 (000422) 研削土
 3. 刃部出土 (000422) 研削土
 4. 刃部出土 (000422) 研削土

遺物 (第13図, 図版13)

土師器・須恵器が主体であり, 土師器は坏, 甕, 須恵器は坏, 高台坏, 蓋の他墨書土器, 転用硯などの他瓦も見られた。

SI-04

遺構 (第9図, 図版5・6)

調査区の南東端, 3H, 4H・I区に位置する。北辺はSI-02と重複してこれを切り, 中央がU字溝によって南北に切られていた。また, 西壁がSK-16, 南東隅がSK-17に切られている。

平面は南北長約3.1~3.4m, 東西長3.4~3.7mの不整形である。なお, 北寄りの床面に改造の痕跡と見られるものがあり, 北側へ0.6~0.8m拡張した可能性が高い。

壁は遺存状態の良い北東部で現存高約45cm, ほぼ直立する。西辺と南辺の壁下には壁濎が設けられており, 幅15~20cm, 深さ6cm程であった。床面はローム層中にあり, 掘りの後, 黒色土混じりのロームで整地しており, ほぼ平坦で堅く締っていた。尚, 前述の如く床面の北寄りには拡張の痕跡と見られるものが認められ, 北側が数センチ高くなっていた。小穴は2口確認したが, 主柱穴は確認できなかった。南壁際の2口は出入口関連の施設と推察される。

カマドは東壁の中央やや南寄りに, 幅約95, 長さ約33cm程壁を切り込み, 白色粘土で築かれていた。南半部は攪乱により乱れているが, 袖部と煙道が2段に掘り込まれていた。袖は若干遺存したが, 袖芯や支脚は認められなかった。なお, 北壁中央部がU字溝に切られていて明確にし難いが, この付近にカマド部材と思われる粘土塊が散在し, 南壁際に入出口の施設と考えられる小穴が見られることから, 本来北カマドであったものが東へ移動した可能性が考えられる。

埋積土は4層に大別され, 自然埋没と考えられる。

遺物 (第14図)

出土遺物は土師器が主体で, 坏, 甕などが見られた。

SI-05

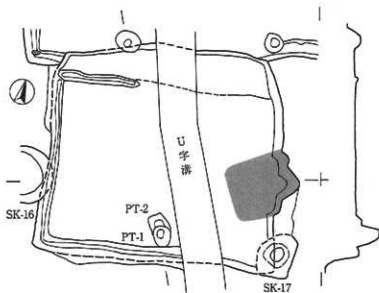
遺構 (第15図, 図版6・7)

調査区南端の中程, 2F, 3F・G区に位置し南側は調査区外に延びる。SI-06と重複しこれを切り, SB-01, SK-02に切られていた。

平面は前記の事情から明確にし難いが, 東西長約4.5m, 現存南北長4.3m, 本来は4.5m四方の方形と推定される。なお, カマドが北辺の中央やや東寄りにあり, 西壁寄りの床面に変化が見られることから, 一辺約3.6mの方形から西と南に拡張して一辺4.5mに拡張した可能性も否めない。壁は遺存状態の良い北壁で現存高40cmでほぼ直立する。壁下には幅15~18cm, 深さ10cmの壁濎が設けられており, カマド部分を除き圍繞していたと考えられる。床面はSI-06の埋積土中にあり壁寄りになると不明瞭となるが, 平坦で堅く締った貼床が施されていた。

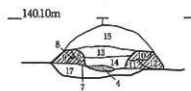
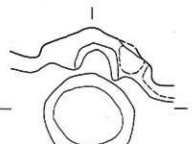
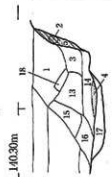
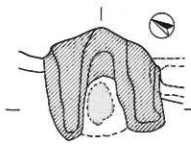
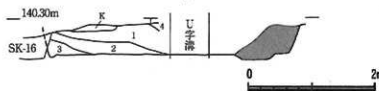
小穴は数口確認したが, 本跡の主柱穴は確認できなかった。

カマドは北壁の中央やや東寄りに, 長さ60cm, 幅120cmの逆U字状に壁を切り込み白色粘土で構築されていた。なお, 焚口の西側には門柱と見られる凝灰岩の切石が掘り込み内に据えられていた。東側は遺存しなかったが, 掘方底面に同様の掘り込みが見られた。また, 支脚も原位置には認められず, 焚口部東手前に支



SI04

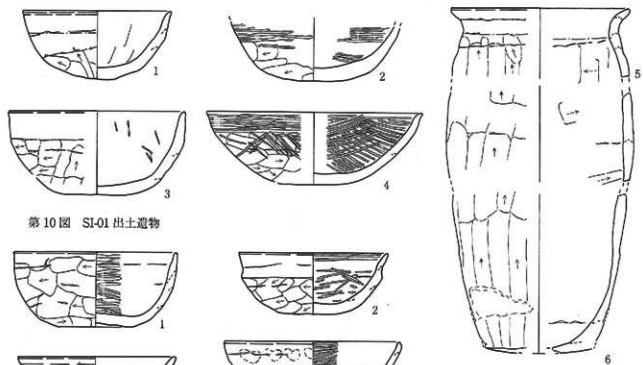
1. 黒褐色土 (OYR3/1) ローム状 (1-10m) 30%JP・SP (1-10m) 3% 含む
2. 黒褐色土 (OYR3/1) ローム状 (1-10m) 10%JP (1-10m) 3%SP (1-10m) 1%含む
3. 黒褐色土 (OYR3/2) ローム状 (1-10m) 10%JP (1-10m) 8%SP (1-10m) 3%、灰化物質 (1-8m) 微量含む
4. 黒褐色土 (OYR3/1) ローム状 (1-10m) 5%、焼土粒 C (1-10m) 15%、JP・SP (1-3m) 微量含む



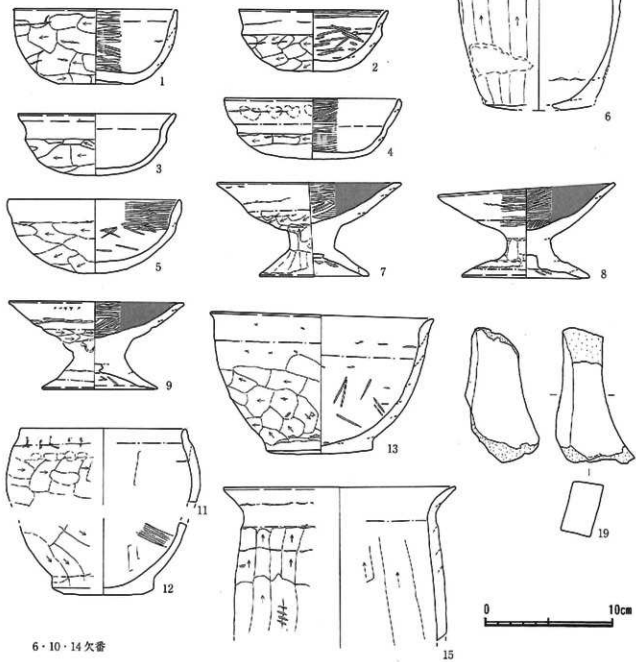
SI04 カマド

1. 黒褐色土 (OYR3/1) 灰白色粘土 (SY7/1) 粒 (1-10m) 焼土粒 (1-5m) 5%、黒土 (OYR2/2) 灰・炭 (1-40m) 5%含む
2. 黒土 (OYR2/1) 灰白色粘土 (SY7/1) 粒 (1-5m) 5%
3. 黒褐色土 (OYR3/2) 灰白色粘土 (SY7/1) 粒 (1-10m) 20%、焼土粒 (1-10m) 20%含む
4. 黒褐色土 (OYR2/2) 灰白色粘土 (SY7/1) 粒 (1-10m) 20%、焼土粒 (1-10m) 3%、黒土 (OYR2/1) 粒・炭 (1-30m) 25%JP・SP 微量含む
5. 黒褐色土 (OYR2/2) 灰白色粘土 (SY7/1) 粒 (1-10m) 20%、焼土粒 (1-10m) 3%含む
6. 黒褐色土 (OYR3/2) ローム状 (1-10m) 10%、灰白色粘土 (SY7/1) 粒 (1-10m) 25%、焼土粒 (1-10m) 15%含む
7. 焼土・炭屑、黒褐色土 (OYR3/1) 30%、灰白色粘土 (SY7/1) 粒 (1-10m) 10%含む
8. 黒土 (OYR2/1) 灰白色粘土 (SY7/1) 粒 (1-10m) 40%含む
9. 焼土
10. 黒褐色土 (OYR2/2) ローム状・粒 (1-30m) 25%、焼土粒 (1-10m) 10%含む
11. 黒褐色土 (OYR2/2) 灰白色粘土 (SY7/1) 40%含む
12. 焼土層 (OYR6/6) 単化した粒土
13. 灰白色粘土 (SY7/1) と焼土 1:1 の混合
14. 灰褐色土 (OYR3/2) ローム状 (1-10m) 15%、焼土粒 (1-10m) 5%含む
15. 黒褐色土 (OYR3/2) 灰白色粘土 (SY7/1) 30%、焼土粒 (1-10m) 5%含む
16. 黒褐色土 (OYR3/1) ローム状 (1-5m) 30%、焼土粒 (1-5m) 2%含む
17. 黒褐色土 (OYR3/1) ローム状 (1-10m) 10%JP・SP 1%
18. 灰白色粘土 (SY7/1) の下層中灰褐色単化 (OYR6/6)、灰屑の混入

第9図 SI-04・カマド



第10图 SI-01 出土遺物



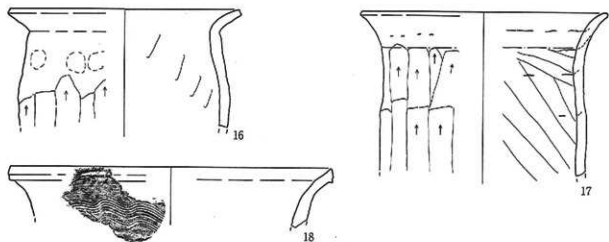
6・10・14 欠香

第11图 SI-02 出土遺物 (1)

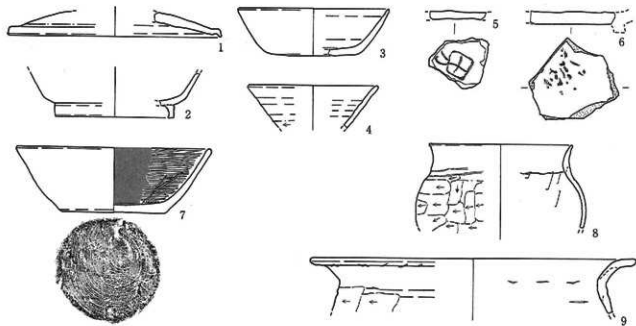
第2表 住居跡出土遺物観察表

()推定値 []現存値

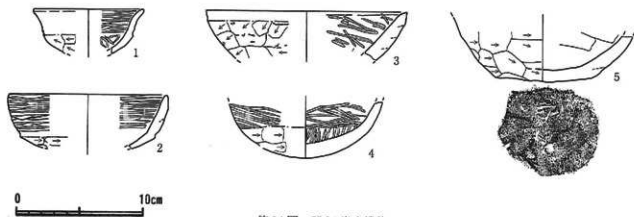
No.	種別 器種	大きさ(cm) 口径・高さ・底径	遺存度	整形・手法等	胎土・焼成・色調	出土位置・備考
SI-01 ①	土師器 坏	口径 11.6 器高 5.4 底径 (7.3)	80%	紐づくり。内面と口辺部外面積ナデ、底部外部一方向への傾り。外面輪土。底の痕跡目立つ	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 内外 黄褐色・黒褐色	床面(2)
SI-01 ②	土師器 坏	口径 — 器高 [4.6] 底径 7.8	90%	内面と口辺部外面積ナデ。ウルクシ処理。外面体部下へ底部へ傾り。火熱により器面荒れる	胎土 粗砂粒混・赤化強い 焼成 普 色調 内 暗褐色 外 粗・暗褐色	床面(1)
SI-01 ③	土師器 坏	口径 (13.2) 器高 5.6 底径 5.5	60%	紐づくり。口辺部内外面積ナデ。体・底部へ傾り。外面粗いナデで胎土継目立つ	胎土 粗砂粒混 焼成 普 色調 内 黄褐色・灰白色 外 黄褐色・棕色	床面(5)
SI-01 ④	土師器 坏	口径 (16.8) 器高 5.2 底径 (5.5)	30%	紐づくり。外面口辺部積ナデ。体・底部へ傾り。内面ミガキ。内面ウルクシ処理	胎土 粗砂粒混・白色粒目立つ 焼成 良 色調 内 黒褐色・暗褐色 外 暗褐色・一部黒褐色	床面(3)+埋積土
SI-01 ⑤	土師器 类	口径 (13.8) 器高 — 底径 —	口辺・体部片	筒筒み。口辺部内外面積ナデ。体部内面積にヘラナデ。外面縦にへり傾り	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 内 暗褐色 外 黒褐色・暗褐色	床面(3)。6と同一個体か
SI-01 a・b	土師器 类	口径 — 器高 — 底径 (8.6)	体・底部片	筒筒み。外面体部縦にへり傾り。内面縦にヘラナデ。底部へ傾り	胎土 粗砂粒混 焼成 普 色調 内外 暗褐色・黒褐色 一部褐色	5と同一個体か。二次火熱で もろい
SI-02 ①	土師器 坏or罐	口径 (12.6) 器高 5.8 底径 5.7	40%	紐づくり。口辺部内外面積ナデ後ミガキ。体・底部へ傾り。内面ウルクシ処理	胎土 砂粒混 焼成 良 色調 内 灰黄褐色 外 灰黄褐色・赤褐色	埋積土
SI-02 ②	土師器 坏	口径 11.8 器高 4.7 底径 3.4	98%	紐づくり。口辺部内外面積ナデ後ミガキ。体・底部へ傾り後垂いミガキ。内面ウルクシ処理	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 内 褐色・黒色 外 灰黄褐色・黒褐色	床面(3)。底に割れ
SI-02 ③	土師器 坏	口径 12.2 器高 4.8 底径 —	100%	外面口辺部積ナデ。体・底部へ傾り。内面変化で不詳	胎土 粗砂粒混 焼成 普 色調 内外 黒色・棕色	カマド(2)。二次火熱で変色劣化。底に割れ
SI-02 ④	土師器 坏	口径 13.6 器高 4.7 底径 7.4	100%	紐づくり。口辺部内外面積ナデ後ミガキ。底部外部へ傾り後粗いミガキ。内面黒色もしくはウルクシ処理	胎土 砂粒混・白色砂粒目立つ 焼成 良 色調 内 黒褐色 外 暗褐色	床面(5)。底に割れ
SI-02 ⑤	土師器 坏	口径 13.4 器高 5.7 底径 —	95%	紐づくり。口辺部内外面積ナデ後ミガキ。体・底部へ傾り。内面ウルクシ処理	胎土 砂粒混・赤褐色粒目立つ 焼成 良 色調 内 棕色 外 黄褐色	カマド(1)。二次火熱で劣化
SI-02 ⑥	欠					
SI-02 ⑦	土師器 高坏	口径 14.4 器高 7.3 底径 8.4	100%	紐づくり。坏部内面ミガキ。黒色処理。坏部外面口辺部積ナデ。底部へ傾り後粗いミガキ。坏部外面積ナデ。坏部内面ヘラナデ。同外面積ナデ	胎土 粗砂粒混・φ5mm以上含む 焼成 良 色調 坏部内黒色・黄褐色	床面(4)
SI-02 ⑧	土師器 高坏	口径 13.9 器高 6.4~7.6 底径 10.0	85%	坏部内面ミガキ。黒色処理。坏部外口辺部積ナデ。体・底部へ傾り後粗いミガキ。脚部積ナデ。新部内面ヘラナデ	胎土 粗砂粒 焼成 良 色調 坏部内・器部内黒色・黄褐色	床面(7)
SI-02 ⑨	土師器 高坏	口径 13.6 器高 6.9 底径 8.9	90%	坏部内面ミガキ。黒色処理。坏部外面口辺部積ナデ。底部へ傾り	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 坏部内黒色・黄褐色	床面(6)
SI-02 ⑩	欠					
SI-02 ⑪	土師器 钵	口径 (12.9) 器高 [5.7] 底径 —	断片	紐づくり。口辺部内外面積ナデ。内面体底部ヘラナデ。外面体部縦・斜めへり傾り	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 内 黒色 外 黒褐色	埋積土。12と同一個体か



第12图 SI-02 出土遗物 (2)



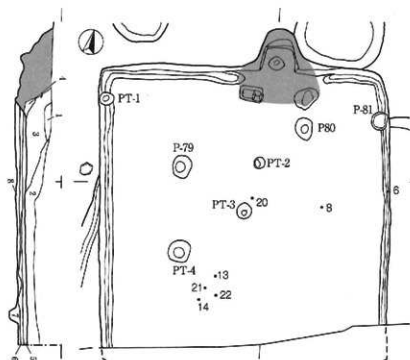
第13图 SI-03 出土遗物



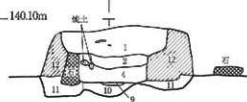
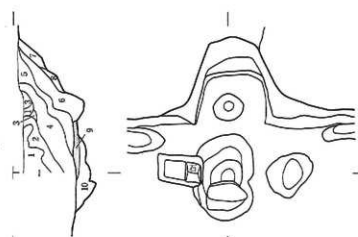
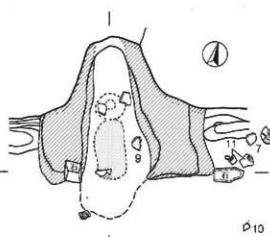
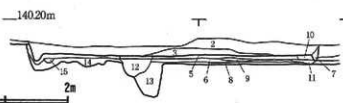
第14图 SI-04 出土遗物

No.	種別 器種	大きさ(cm) 口径・高さ・底径	遺存度	整形・手法等	胎土・焼成・色調	出土位置・備考
SI-02 ②	土師器 鉢	口径 一 器高 [5.4] 底径 (8.0)	断片	紐づくり、口辺部内外面積ナデ、内面体底部ヘラナデ、外面体磨製・斜めヘラ削り、底部外面不定方向のヘラ削り	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 内 黒色 外 黒褐色	埋蔵土、11と同一個体か
SI-02 ③	土師器 鉢	口径 17.4 器高 10.9 底径 8.3	100%	紐づくり、口辺部内外面積ナデ、体・底部ヘラ削り、内面下半ヘラナデ	胎土 粗砂粒混・赤褐色或目立つ 焼成 良か 色調 一	カマド(7)、カマド支脚に 応用、二次火熱で劣化
SI-02 ④	粘土焼 器	口径 11×10 器高 9.0 底径 一	一		胎土 粗砂粒混 焼成 一 色調 褐色	カマド、この粘土塊に3の鉢 を嵌せて支脚としていた
SI-02 ⑤	土師器 甕	口径 (18.1) 器高 [11.6] 底径 一	断片	輪組み、口辺部内外面積ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ	胎土 粗砂粒多量混 焼成 香 色調 内 ぶい黄褐色 外 黒褐色・赤褐色	カマド(4)、二次火熱で変色劣化
SI-02 ⑥	土師器 甕	口径 (18.0) 器高 [9.2] 底径 一	断片	輪組み、口辺部内外面積ナデ、体部外面のヘラ削り、内面積ヘラナデ	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 ぶい黄色・黒褐色	床面(2)
SI-02 ⑦	土師器 甕or瓶	口径 (19.2) 器高 [12.7] 底径 一	断片	輪組み、口辺部内外面積ナデ、体部外面のヘラ削り、内面斜めのヘラナデ	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 内外 黄褐色	カマド(6)
SI-02 ⑧	須恵器 甕	口径 (25.3) 器高 一 底径 一	断片	ロクロ整形、外面に1半9条のクシによる放射文2段	胎土 砂粒混 焼成 良 色調 内外 青灰色	埋蔵土
SI-02 ⑨	石製品 磁石	現存長 10.6 器高 4.2×2.4 重量	60%?	4面使用、一部破損面に另ざらえの痕跡	胎土 一 焼成 一 色調 オリーブ黄色	埋蔵土、燧灰岩
SI-03 ①	須恵器 甕	口径 (16.7) 器高 一 底径 一	断片	ロクロ整形、甲はヘラ削り後ナデ	胎土 粗砂粒混・雲母粒目立つ 焼成 香 色調 内外 黄褐色	埋蔵土
SI-03 ②	須恵器 高台杯	口径 一 器高 一 底径 (6.3)	断片	ロクロ整形、底部付高台	胎土 砂粒混・白色粒目立つ 焼成 良 色調 内外 灰白色	埋蔵土
SI-03 ③	須恵器 杯	口径 (11.9) 器高 (4.8) 底径 (5.6)	20%	ロクロ整形、底部余切り後ヘラ削り	胎土 砂粒混・白色粒目立つ 焼成 良 色調 内外 青灰色 部分的に黒色・灰白色	カマド、内外面に降灰
SI-03 ④	須恵器 杯	口径 (10.0) 器高 一 底径 一	断片	ロクロ整形、外面体部下半手もちヘラ削り	胎土 砂粒混・白色粒目立つ 焼成 香 色調 内外 灰色・黒褐色	埋蔵土
SI-03 ⑤	須恵器 杯	口径 一 器高 一 底径 一	断片	ロクロ整形、底部外面積ナデヘラ削り	胎土 砂粒混・白色粒目立つ 焼成 良 色調 内外 黒褐色	埋蔵土、底部外面に黒帯「田万」or「菊」
SI-03 ⑥	須恵器 高台盤	口径 一 器高 一 底径 一	断片	ロクロ整形、底部外面ヘラ削り後付高台(遺存せず)	胎土 粗砂粒混・白色粒目立つ 焼成 良 色調 内外 灰色・暗灰色	埋蔵土、底部外面非常に磨滅、転用疑わ
SI-03 ⑦	土師器 杯	口径 (15.2) 器高 5.1 底径 8.5	60%	ロクロ整形、底部余切り、体部横・底部磨製にミガキ、内面黒色焼製	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 内 黒色 外 褐色・黄褐色	床面(1)、外面二次火熱で変色
SI-03 ⑧	土師器 台付甕	口径 (11.2) 器高 [6.5] 底径 一	断片	口辺部内外面積ナデ、体部内面積ナデヘラナデ、外面ヘラ削り	胎土 砂粒混 焼成 良 色調 内外 黒褐色	埋蔵土
SI-03 ⑨	土師器 甕	口径 (25.5) 器高 一 底径 一	断片	輪組み、口辺部内外面積ナデ、体部内面積ナデヘラナデ、外面積ナデヘラ削り	胎土 粗砂粒混・雲母目立つ 焼成 香 色調 内外 褐色	カマド(3)、二次火熱で変色

No	種別 器種	大きさ(cm)		造寸度	整形・手法等	胎土・焼成・色調	出土位置・備考
		口径	高さ・底径				
SI-04 ①	土師器 坏	口径 (8.6) 器高 [3.5] 底径 —	断片	—	横づくり、外面口辺部横ナデ、 底部ヘラ削り後粗いミガキ、内 面ミガキ	胎土 砂粒混 焼成 良 色調 内 灰青褐色 外 褐色黒色	埋積土
SI-04 ②	土師器 坏	口径 (12.4) 器高 [4.2] 底径 —	断片	—	横づくり、内面と口辺部外面ミ ガキ、底部ヘラ削り後粗いミガ キ、内面ウルクシ処理	胎土 砂粒混 焼成 良 色調 内外 褐色色・黒褐色	埋積土
SI-04 ③	土師器 鉢or甗	口径 (15.8) 器高 — 底径 —	断片	—	横づくり、口辺部内外面横ナデ 後ミガキ、底部ヘラ削り後粗い ミガキ	胎土 砂粒混 焼成 良 色調 内 黒色・褐色 外 黒褐色	埋積土
SI-04 ④	土師器 鉢or甗	口径 — 器高 — 底径 —	30%	—	横づくり、口辺部内外面ミガ キ、体・底部ヘラ削り、内面ウ ルクシ処理	胎土 砂粒混・白色鉄滓部に目立つ 焼成 良 色調 内 黒色・黒褐色 外 黒褐色・灰青褐色	埋積土
SI-04 ⑤	土師器 鉢or甗	口径 — 器高 — 底径 7.6	25%	—	薄唇内、内面横ナデ、体部外面 ヘラ削り、内面ナデ	胎土 粗砂混 焼成 良 色調 内 暗褐色 外 黒褐色・褐色	埋積土、外面に赤化した胎土 付着。カマド内使用か
SI-05 ①	須志器 甗	口径 (20.1) 器高 — 底径 —	断片	—	クロロ整形、甲はヘラ削り	胎土 砂粒混・白色鉄目立つ 焼成 良 色調 内外 暗灰色	埋積土
SI-05 ②	須志器 甗	口径 — 器高 — 底径 —	40%	—	クロロ整形、甲はヘラ削り、フ マミの周縁はナデ	胎土 砂粒混・白色鉄目立つ 焼成 良 色調 内外 灰色	埋積土
SI-05 ③	須志器 坏	口径 — 器高 — 底径 —	断片	—	クロロ整形	胎土 粗砂粒 (6mm) 混・長石粒が 焼成 良 色調 内外 暗灰色	埋積土
SI-05 ④	須志器 坏	口径 — 器高 — 底径 (7.8)	断片	—	クロロ整形、外面体部下端・底 部手もちヘラ削り	胎土 粗砂粒混・白色鉄滓が目立つ 焼成 香 色調 内外 黄灰色	埋積土
SI-05 ⑤	須志器 甗	口径 (15.0) 器高 [1.8] 底径 —	断片	—	クロロ整形、底部付高台	胎土 砂粒混・灰台のみ黒色の 胎土使用 焼成 良 色調 内外 黒灰色・高台黒色	埋積土
SI-05 ⑥	土師器 坏	口径 (12.8) 器高 4.0 底径 6.2	40%	—	クロロ整形、体部縦・底部一方 向のミガキ、底部糸切り、内面 黒色処理	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 内 黒色 外 黄褐色	床面(1)、内底部に焼成面 の「×」の記号
SI-05 ⑦	土師器 坏	口径 12.2 器高 4.2 底径 6.9	60%	—	クロロ整形、体部縦・底部一方 向のミガキ、底部糸切り、内面 黒色処理	胎土 粗砂粒混 焼成 ややあまい 色調 内 黒色 外 黒色・にぶい黄褐色	カマド(6)、二次火熱で外 面やや変色
SI-05 ⑧	土師器 坏	口径 12.8 器高 4.2~4.6 底径 5.8	70%	—	クロロ整形、体部縦・底部一方 向のミガキ、底部糸切り、内面 黒色処理	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 内 黒色・一部にぶい黄褐色 外 黒色・にぶい黄褐色	床面(3)+埋積土、二次火 熱で黒色処理劣化、一部内外 とも変色
SI-05 ⑨	土師器 坏or甗	口径 (13.0) 器高 5.0 底径 6.5	60%	—	クロロ整形、内面と口辺部外面 ミガキ、外面体部ヘラ削り、底 部劣化で不明	胎土 粗砂粒混・赤褐色鉄目立つ 焼成 香 色調 内外 褐色・黄褐色	カマド(10)、二次火熱で変 色劣化
SI-05 ⑩	土師器 坏	口径 14.4 器高 4.5 底径 6.9	60%	—	クロロ整形、体部縦・底部一方 向のミガキ、底部糸切り、内面 黒色処理	胎土 粗砂粒混 焼成 香 色調 内 黒色・一部にぶい黄褐色 外 にぶい黄褐色	カマド(3)、二次火熱で黒色 処理劣化、一部内外とも変色
SI-05 ⑪	土師器 坏	口径 14.5 器高 4.5~5.0 底径 7.0	50%	—	クロロ整形、体部縦・底部一方 向のミガキ、底部糸切り、内面 黒色処理	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 内 黒色 外 にぶい黄褐色・灰黄色	カマド(4)、二次火熱で黒 色処理劣化
SI-05 ⑫	土師器 甗	口径 15.3 器高 5.2 底径 7.4	60%	—	クロロ整形、体部縦・底部一方 向のミガキ、底部糸切り、内面 黒色処理	胎土 粗砂粒 (5mm) 混 焼成 香 色調 内 黒色・一部黄褐色 外 暗褐色・一部黄褐色	カマド、二次火熱で出色処理 劣化、一部内外とも変色

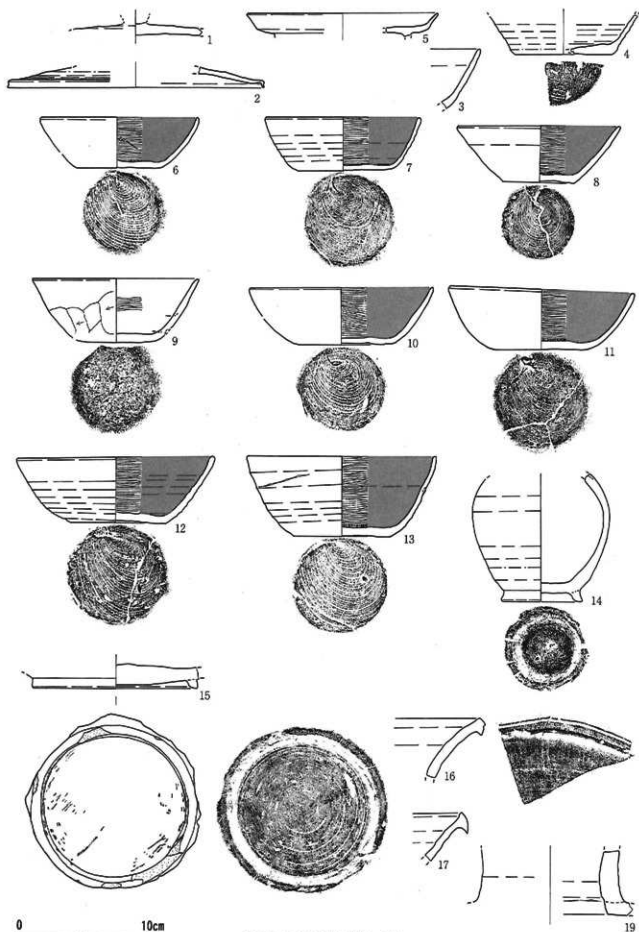


- SI-05
1. 黒褐色土 (OY92/1) 〇-A段 (1~2m) 10%, 灰土段 (1~5m) 10%, 灰白色粘土 (OY7/1) 段 (1~5m) 10%合分
 2. 黒褐色土 (OY92/2) 〇-A段 (1~2m) 5%, P・S70%合分
 3. 黒褐色土 (OY92/2) 〇-A段 (1~5m) 15%, 灰土段 (1~5m) 10%, 灰白色粘土 (OY7/1) 段 (1~10m) 20%合分
 4. 暗褐色土 (OY92/2) 〇-A段 (1~5m) 15%, 灰土段 (1~10m) 20%, 灰白色粘土 (OY7/1) 段 (1~10m) 20%, 灰褐色土 (OY7/1) 段 (1~10m) 20%, 灰褐色土 (OY7/1) 段 (1~10m) 20%, 灰褐色土 (OY7/1) 段 (1~10m) 20%合分
 5. 黒褐色土 (OY92/2) 〇-A段 (1~10m) 15%, 灰土段 (15~20m) 10%合分
 6. 黒褐色土 (OY92/2) 〇-A段 (1~10m) 20%, 灰土段 (15~20m) 10%合分
 7. 黒褐色土 (OY92/2) P70% S70%合分
 8. 黒褐色土 (OY92/1) 〇-A段 (1~10m) 15%, 灰土段 (15~20m) 10%合分
 9. 灰白色粘土 (OY7/1) 灰土段 (1~10m) 15%, 〇-A段 (1~10m) 10%合分
 10. 灰白色粘土 (OY7/1) 灰土段 (1~10m) 20%合分
 11. 灰白色粘土 (OY7/1) 灰土段 (1~10m) 15%, 灰褐色土 (OY92/2) 20%合分
 12. 黒褐色土 (OY92/2) 〇-A段 (1~10m) 15%合分
 13. 黒褐色土 (OY92/2) 〇-A段 (1~10m) 20%, 灰土段 (15~20m) 15%合分
 14. 黒褐色土 (OY92/2) 〇-A段 (1~10m) 15%, 灰土段 (20~150m) 20%合分
 15. 〇-A段・灰 (1~20m) 主体部褐色土 (OY92/2) 20%合分

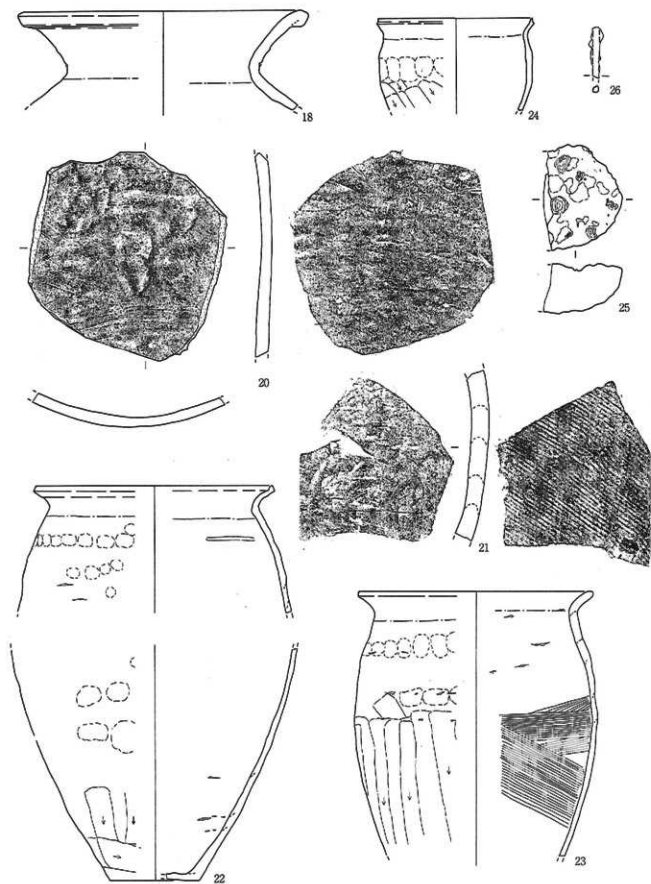


- SI-05 99VF
1. 暗褐色土 (OY92/2) 灰白色粘土 (OY7/1) 段 (1~10m) 20%, 灰土段・灰褐色土 (2~5m) 各2%合分
 2. 灰白色粘土 (OY7/1) 灰褐色土 (OY92/1) 15%, 灰褐色土 10%, 灰土段 (1~10m) 8%合分
 3. 灰土基座, 灰白色粘土 (OY7/1) 段 (1~10m) 10%, 〇-A段 (1~10m) 10%合分
 4. 暗褐色土 (OY92/2) 灰土段 (1~10m) 15%, 土に灰褐色土 (OY92/1) 20%, 灰褐色土 (OY7/1) 15%合分
 5. 暗褐色土 (OY92/2) 灰土段 (1~10m) 20%, 灰土段 (1~10m) 20%合分
 6. 灰土基座, 灰白色粘土 (OY7/1) 20%, 〇-A段 (1~10m) 5%合分
 7. 暗褐色土 (OY92/2) 〇-A段 (1~10m) 20%, 灰土段 (1~10m) 20%合分
 8. 灰白色粘土 (OY7/1) 灰褐色土 (OY92/1) 10%, 〇-A段 (1~10m) 10%, 灰土段 (1~10m) 5%合分
 9. 灰土 (S60)
 10. 暗褐色土 (OY92/2) 〇-A段 (1~10m) 20%, 灰土段 (1~10m) 10%合分
 11. 〇-A段・灰 (1~40m) 主体, 灰白色粘土 (OY92/2) 20%, 灰白色粘土 (OY7/1) 10%, 灰土段 (1~5m) 5%合分

第15図 SI-05・カマド



第16图 SI-05 出土遺物(1)



第17图 SI-06 出土遗物(2)

No.	種別 器種	大きさ(cm) 口徑・高さ・底径	遺存度	整形・手法等	胎土・焼成・色調	出土位置・備考
SI-05 ㊸	土師器 壺	口徑 (14.8) 器高 6.8 底径 7.6	80%	ロクロ整形。体部横・底部一方 向のミガキ。底部糸切り。内面 黒色染施	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 内黒色 外黄褐色・一部黒色	灰面(7)
SI-05 ㊹	須恵器 長頸瓶	口徑 — 器高 [10.0] 底径 6.2	70%	ロクロ整形。底部ヘラ削り後付 高台	胎土 粗砂粒混・白色粒目立つ 焼成 良 色調 内灰色 外暗灰色・灰色	灰面(10)・胴部と口頸部の 接合部で破損
SI-05 ㊺	須恵器 壺か	口徑 — 器高 — 底径 12.8	底部片	ロクロ整形。底部ヘラ削り後付 高台	胎土 粗砂粒混・雲母目立つ 焼成 あまい 色調 オリーブ灰色・黄褐色	埋藏土。体部との割れ口を意 図的に打欠き調整。高台に垂 直。服用瓶か
SI-05 ㊻	須恵器 壺	口徑 — 器高 — 底径 —	断片	ロクロ整形。口頸部外面に整形 時の圧痕	胎土 粗砂粒混・白色粒目立つ・ 雲母微量 焼成 善 色調 内外黒色	埋藏土
SI-05 ㊼	須恵器 壺or盆	口徑 — 器高 — 底径 —	断片、口頸部	ロクロ整形	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 内黒灰色によりしもみり状 外灰色	埋藏土。破損による変色
SI-05 ㊽	須恵器 盆	口徑 (21.7) 器高 — 底径 —	断片	ロクロ整形。体部外面平行叩 き。内面無文当具痕	胎土 粗砂粒混・雲母目立つ 焼成 あまい 色調 内 黒灰色・暗灰色	埋藏土
SI-05 ㊾	須恵器 壺	口徑 — 器高 — 底径 —	断片	ロクロ整形。胴部外面整形時の 圧痕	胎土 粗砂粒混・白色粒目立つ 焼成 良 色調 内外灰色・黒褐色	埋藏土。陶質による変色
SI-05 ㊿	須恵器 壺	口徑 — 器高 — 底径 —	断片	輪組み。外面無文叩き。内面無 文当具痕	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 内黒灰色 外灰色	灰面(6)・内面中央部の形 減著しく、兩々に割れ口の劣 を併った調整痕が見られ、服 用瓶と考えられる。
SI-05 ㊽	須恵器 壺	口徑 — 器高 — 底径 —	断片	輪組み。外面平行叩き目文。内 面無文当具痕。器具には1条の 波痕かキズがある	胎土 粗砂粒混・白色粒目立つ 焼成 良 色調 内灰色 外 暗灰色	灰面(9)
SI-05 ㊾	土師器 壺	口徑 (18.6) 器高 — 底径 (7.1)	30%	輪組み。口頸部内外面横ナデ。 体部内面ナデ。外面上半指頭圧 痕。下半横・下底縁のヘラ削 り。底部内面指頭圧痕。外面ヘ ラ削り	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 内 におい黄褐色 外赤褐色・褐色・黒褐色	灰面(8)
SI-05 ㊿	土師器 壺	口徑 (18.3) 器高 [20.8] 底径 —	25%	輪組み。口頸部内外面横ナデ。 体部内面ヘラナデ。外面上半指 頭圧痕。下半横のヘラ削り。底 部内面指頭圧痕。外面ヘラ削り	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 内 におい黄色 外 褐色・灰黄褐色	埋藏土
SI-05 ㊽	土師器 小形壺	口徑 (12.2) 器高 [7.3] 底径 —	断片	輪組み。口頸部内外面横ナデ。 体部外面上半指頭圧痕。下半ヘ ラ削り。内面劣化により不詳	胎土 粗砂粒混・白色粒目立つ 焼成 善 色調 内 黒褐色・におい黄褐色 外 褐色・暗褐色	埋藏土
SI-05 ㊾	鉄製品 鉄部	径 (8.0) 厚さ 3.9 重量 [277]g	70%	項形洋。比較的重い	胎土 — 焼成 — 色調 —	埋藏土
SI-05 ㊿	鉄製品 不明	現存長 [4.0] 径 0.5 重量 [4]g	60%	下端を欠損。上部はやや太くな るか?	胎土 — 焼成 — 色調 —	埋藏土
SI-06 ①	須恵器 蓋	口徑 (16.1) 器高 [2.4] 底径 —	40%	ロクロ整形。甲はヘラ削り。ツ マミの側面はナデ	胎土 粗砂粒混・白色粒・雲母目 立つ 焼成 あまい 色調 内 灰白色 外 灰黄色	灰面(2)
SI-06 ②	須恵器 高台杯	口徑 (12.4) 器高 — 底径 —	断片	ロクロ整形。付高台欠損の痕跡	胎土 粗砂粒混・白色粒目立つ 焼成 良 色調 内 灰黄色 外 灰色	埋藏土

脚と思われる凝灰岩の切石が遺存した。なお、この石材は長さが約23cmで西側の石材と大差無い長さであり、あるいは焚口部の門柱として利用されていた可能性もある。

埋積土は3層に大別され自然埋没と考えられる。

遺物 (第16・17図, 図版14)

出土遺物は土師器及び須恵器が主体で、土師器は、坏、埴、甕、須恵器は坏、高台皿、蓋、長頸甕、甕、鉄製品や鉄滓、瓦などの他、転用視が2点見られた。

SI-06

遺構 (第18図, 図版7)

調査区の南端の中程、2F・G、3F・Gに位置し、南端は調査区外に延びる。SI-05、SK-01と重複しこれらに切られていた。

平面は前記の事情により明確にし難いが、東西長約6m、現存南北長約4.8m、本来は一辺6m程の方形と推定される。なお、調査区南端で東西方向に延びる壁溝を一条確認した。方向的には本跡の北壁と平行することから、拡張前の本跡の壁溝と判断されるが、東側は調査区外に延び、西は西壁の2.5m程手前で途切れており本来の長さは不明である。したがって、この壁の時期における本跡の形状が方形が横長の長方形であったかは明確にし難い。この壁溝から北壁まで約3.5m、カマドを中心として割出した推定東西長は約4mであり、当初は3.5×4m程のやや東西に長い長方形と推定される。

壁は遺存状態の良好な西で現存高約47cmでほぼ直立する。壁下には幅15～20cm、深さ10cm程の壁溝が設けられており、本来はカマド部分を除き圍繞していたと考えられる。また、西辺では2条が平行していた。

床面はローム層中にあり粗掘りの後、ローム主体の土で整地しているが、各隅部には床下の掘り込みが見られ、北東隅は特に明瞭であり、カマド改修時の部材とともに土師器、須恵器なども混入していた。

小穴は10数口確認し、PT-1・2・3が主柱穴、PT-4は出入口の施設、PT-5・6はカマドの付属施設と考えられる。P-79・80・81は後世の掘り込みと判断される。なお、西のPT-1・3はともに2口が重複しており、壁溝と合せ建て替えの存在が知られるが西側のみの可能性が高い。カマドは北壁の中央やや東寄りに壁を長さ約50cm、幅約70cmのU字型に切り込むとともに、ロームを削り残して袖芯としていた。

埋積土は上記の事情によりほとんど遺存しないが、かろうじて遺存した東部は単一層であり自然埋没と推定された。

遺物 (第24図, 図版14)

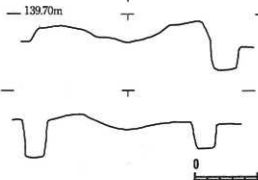
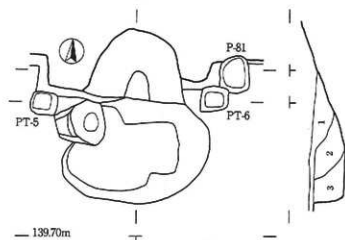
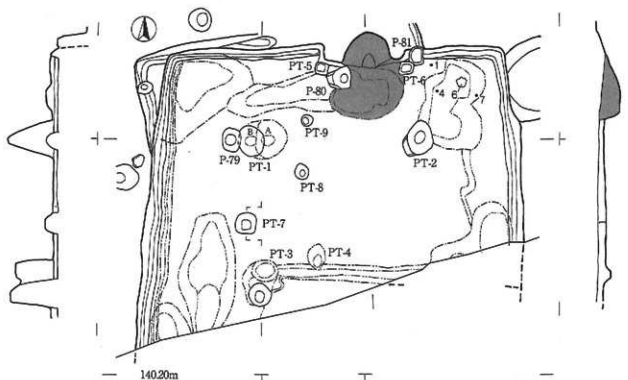
出土遺物は土師器、須恵器が主体で、土師器は坏、甕、台付甕、須恵器は坏、高台坏、蓋、甕などが出土している。

SI-07

遺構 (第19図, 図版7・8)

調査区の南西端、1C、2C・D区に位置し、大部分は調査区外に所在し、北端の一部が認められたに過ぎない。北東と北西の隅にP-32・33が重複しており、埋積土の観察から本跡の埋没(人為的)後に掘り込まれたと判断されSB-02を想定している。

平面形は上記の事情から明確にし難いが、東西長約3.7m、現存南北長約0.5mで、本来は一辺3.7m程の方形と推定される。なお、北西隅が丸味を帯びるのはP-33との重複によるものと考えられる。



- SI-06
1. 円-A段・溝 (1~40m) 土層、黒褐色土 (10YR2/3) 15%、黒褐色土 (10YR2/2) 20%含む
 2. 円-A段・溝 (1~30m) 土層、黒褐色土 (10YR2/2) 20%、粘土粒・塊 (1~30m) 10%、灰白色粘土 (5Y7/1) 粒・塊 (1~40m) 15%含む
 3. 円-A段・溝 (1~60m) 土層、黒褐色土 (10YR2/2) 40%含む
 4. 円-A段・溝 (1~30m) 土層、黒褐色土 (10YR2/2) 30%含む

- SI-06 カマド
1. 黒褐色土 (10YR2/1) 円-A段 (1~10m) 20%、粘土粒 (1~10m) 10%、灰白色粘土 (5Y7/1) 粒・塊 (1~30m) 5%含む
 2. 黒褐色土 (10YR2/2) 円-A段 (1~10m) 10%、同層 (15~30m) 30%、粘土粒 (1~5m) 微粒含む
 3. 黒褐色土 (10YR2/2) 円-A段 (1~10m) 10%、粘土粒 (1~10m) 8%、灰白色粘土 (5YR6/1) 粒 (1~10m) 15%含む

第18図 SI-06・カマド

壁は現存高28cm程でほぼ直立する。壁溝は確認できなかった。床面はローム層中にあり、平坦で堅く締っていた。小穴は2口確認したが前述の如く後世のものである。

カマドは、北壁の中央東寄りに、長さ約20cm、幅約55cmの台形に切り込み白色粘土で築かれていた。袖部と火床の一部が遺存したが、支脚は認められなかった。西側袖部には補強材として土師器製の破片が混入されており、細長の礫も認められた。

埋積土は5層に大別され、人為的埋没と推察される。

遺物 (第25図, 図版14)

出土遺物は土師器が主体で、坏、甕などが見られ、完形の坏が床面上10cm程の位置から出土している。

SI-09

遺構 (第20図, 図版8)

調査区の中央部、7D区に位置し、大部分が調査区外に所在していて、南東の一部を確認したに過ぎない。東側がSX-02、南がSK-09、北端中程にP-59 (SB-05) などと重複し、これらに切られていた。

平面は上記の事情により明確にし難い。現存の東西長約2.6m、同南北長約0.8mである。

壁は現存高約35cmでほぼ直立する。壁下には幅18～22cm、深さ約9cmの壁溝が設けられていた。床面はローム層中にあり、粗掘りの後、ローム主体の土で整地されていた。確認部分は平坦で堅く締っていた。小穴は認められず、柱穴は不明である。カマドは調査範囲内には見られなかった。

埋積土は3層に大別され、人為的埋設と考えられる。

遺物 (第26図)

出土遺物は土師器を主体とし、土師器坏・甕などが見られた。

SI-10

遺構 (第21図, 図版8)

調査区の中央部、6・7F区に位置し、南側の大部分が調査区内に所在しており、北西の一部を確認し得たに過ぎない。南西部はSI-11と重複しこれに切られていた。

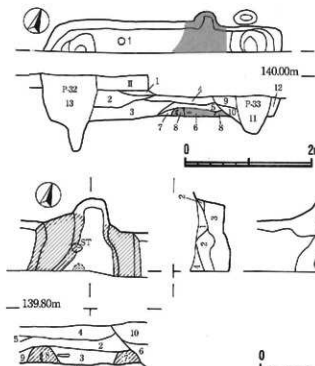
平面形は前記の事情により明確にし難い。現存の東西長約1.6m、同南北長約0.6mで、カマドの痕跡から推定し得る東西長は約3.6mである。壁は現存高約27cmでほぼ直立する。壁溝は確認できなかった。床面はローム層中にあり粗掘りの後、ローム主体の土で整地しており、調査範囲内では平坦で堅く締っていた。柱穴は確認できなかった。

カマドは北壁に築かれており、煙道部の先端は堅穴の北西隅より約1.8mと考えられる。しかし、調査区内には煙道部の先端が見られるのみで、調査は断念した。

埋積土はローム粒・塊を多量に含み人為的埋没と判断されるが、SI-11との区分し難い状況であった。本跡の床面がSI-11の範囲に延びてないことから新旧関係を判断した。

遺物 (第27図)

埋積土中より土師器片が少量出土したのみである。

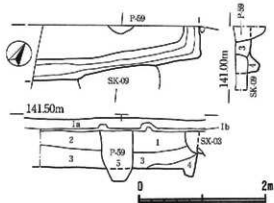


- SI-07
1. 黒褐色土 (SY92/1) ローム状 (1-5m) 9%含む
 2. 黒褐色土 (SY92/1) ローム状 (1-20m) 19%, 砂層 (15-20m) 1%含む
 3. 黒褐色土 (SY92/1) ローム状 (1-10m) 20%, 砂層 (15-20m) 2%含む
 4. 黒褐色土 (SY92/1) 灰化土 (SY6/1) 状 (1-10m) 25%, 砂層 (15-20m) 15%, ローム状 (1-10m) 3%含む
 5. 灰化土 (SY6/1) 腐植土 (SY9/1) 25%, ローム状 (1-10m) 10%含む
 6. 腐植土 (SY9/1) 遺土・灰 (1-20m) 20%, 灰化土 (SY6/1) 15%含む
 7. 灰化土 (SY9/1) ローム状 (1-5m) 8%, 砂層 (15-20m) 2%, 灰化土 (SY6/1) 状 (1-10m) 2%含む
 8. 灰褐色土 (SY92/2) ローム状 (1-20m) 20%, 黒褐色土 (SY92/1) 15%含む
 9. 黒褐色土 (SY92/1) ローム状 (1-10m) 10%, 砂層 (15-20m) 2%, 灰化土 (SY6/1) 状 (1-10m) 5%含む, P-33埋土
 10. 黒褐色土 (SY92/2) ローム状 (1-10m) 20%, 灰化土 (SY6/1) 状 (1-10m) 2%含む, P-33埋土
 11. 黒褐色土 (SY92/2) ローム状 (1-10m) 20%含む, P-33埋土
 12. 黒褐色土 (SY92/1) ローム状 (1-10m) 10%含む, P-33埋土
 13. 黒褐色土 (SY92/2) ローム状 (1-10m) 20%, 砂層 (15-20m) 2%含む, P-33埋土

第19図 SI-07・カマド

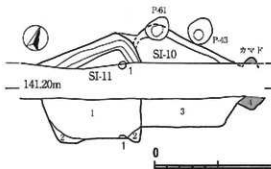
SI-07 カマド

1. 灰褐色土 (SY92/1) ローム状 (1-5m) 19%, 灰化土 (SY6/1) 状 (1-10m) 20%含む
2. 灰化土 (SY6/1) 腐植土 (SY9/1) 25%, ローム状 (1-10m) 19%含む
3. 腐植土 (SY9/1) 遺土・灰 (1-20m) 20%, 灰化土 (SY6/1) 15%含む
4. 腐植土 (SY9/1) 灰化土 (SY6/1) 状 (1-10m) 25%, 砂層 (15-20m) 15%, ローム状 (1-10m) 3%含む
5. 黒褐色土 (SY92/1) ローム状 (1-10m) 20%, 砂層 (15-20m) 2%含む
6. 灰褐色土 (SY92/2) ローム状 (1-10m) 20%, 灰化土 (SY6/1) 状 (1-10m) 15%含む, P-33埋土
7. 灰褐色土 (SY92/2) ローム状 (1-10m) 20%, 黒褐色土 (SY92/1) 15%含む, 埋土
8. 同上, 土砂層不含, 埋土
9. 黒褐色土 (SY92/1) ローム状 (1-10m) 8%, 砂層 (15-20m) 2%, 灰化土 (SY6/1) 状 (1-10m) 2%含む
13. 黒褐色土 (SY92/1) ローム状 (1-10m) 19%, 砂層 (15-20m) 2%, 灰化土 (SY6/1) 状 (1-10m) 5%含む, P-33埋土



- SI-09
1. 黒褐色土 (SY92/2) ローム状 (1-10m) 15%, IP・SP・炭化層 (1-5m) 腐植土含む
 2. 黒褐色土 (SY92/2) ローム状 (1-10m) 15%, 砂層 (15-20m) 5%, IP・SP (1-5m) 腐植土含む
 3. 黒褐色土 (SY92/2) ローム状 (1-10m) 20%, IP・SP (1-5m) 腐植土含む
 4. 黒褐色土 (SY92/2) ローム状 (1-10m) 20%, 砂層 (15-20m) 2%含む
 5. 黒褐色土 (SY92/2) ローム状 (1-10m) 20%, IP・SP・炭化層 (1-5m) 腐植土含む, P-59埋土

第20図 SI-09



- SI-10・11
1. 灰褐色土 (SY92/2) ローム状 (1-10m) 20%, 砂層 (15-20m) 10%, 炭化層 (1-10m) 1%含む, P-63埋土
 2. ローム状・炭化層, 灰褐色土 (SY92/2) 40%含む, SI-11埋土
 3. 灰褐色土 (SY92/2) ローム状 (1-10m) 20%, 砂層 (15-20m) 5%, 炭化層 (1-5m) 遺土含む, SI-10埋土
 4. 灰褐色土 (SY92/2) ローム状 (1-10m) 20%, 灰化土 (SY6/1) 状 (1-10m) 10%, 砂層 (15-20m) 10%含む, SI-10カマド

第21図 SI-10・11

SI-11

遺構 (第21図, 図版8・9)

調査区の中央部, 6E・F区に位置し, 南側の大部分が調査区外にあり, 北東隅の一部を確認し得たに過ぎない。北東側がSI-10と重複しこれを切っていた。

平面は上記の事情により明確にし難い。現存東西長約1.6m, 同南北長約0.5cmである。壁は現存高約50cmで, ほぼ直立する。壁下には幅15~18cm, 深さ8cm程の壁溝が設けられていた。床面はローム層中にあり, 粗掘りの後, ローム主体の土で整地されていた。調査範囲内は平坦で非常に堅く締っていた。

柱穴及びカマドは調査範囲内には認められなかった。

埋積土は前述の如く, ローム粒・塊を多量に含み人為的埋没と判断されるが, 重複するSI-10との識別に困難する状況であった。

遺物 (第28図, 図版14)

土師器が主体で, 床面直上より到位で略完形の土師器坏が1点出土している。

SI-13

遺構 (第22図, 図版9)

調査区北西端, 10B・C区に位置する。水路部分の為, 幅1m程の範囲の調査であり不明な部分が多い。また, 北寄りには古い水路があって上部が削平されていた。

平面は前記の状況から明確にし難い。現存の東西長約3.2m, 同南北長約2.2mで, カマドの位置より推定される東長は約5.4mである。壁は遺存状態の良好な北で現存高約45cm, ほぼ直立する。壁下には幅12~20cm, 深さ5cm程の壁溝が設けられており, 本来はカマド部分を除き圍繞していたと推察される。また, 西壁より東のPT-1に向って幅25cm, 長さ60cm程の溝状の掘り込みがあり, 間仕切溝の可能性が高い。床面はローム層中にあり粗掘りの後, ローム主体の土で整地されていたが, 北西隅には床下の掘り込みが設けられていた。調査範囲内は平坦で全体に堅く締っていた。小穴は2口確認したが, 北西隅に位置すると思われるPT-1は主柱と判断されるが, カマド下のPT-2は本跡に先行する遺構と考えられる。

カマドは北壁の中程(推定)に, 袖部と煙道部の2段に壁を掘り込み白色粘土で築かれていた。袖部と火床部は認められたが, 支脚や袖芯などは認められなかった。

埋積土は3層に大別され, 自然埋没と推定される。

遺物 (第29図)

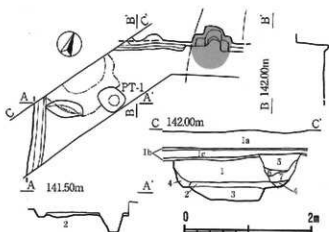
埋積土中より土師器片が出土した他, 本跡周辺より須恵器なども出土しているが, 水路との重複もあり帰属は明確にし難い。

SI-14

遺構 (第23図, 図版9)

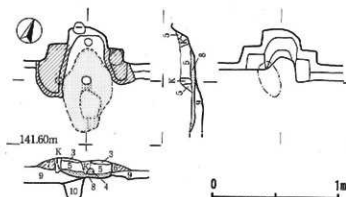
調査西端の北寄り, 5・6A・B区に位置する。SI-13と同様水路部分の調査で幅1mのトレンチ状に調査し得たに過ぎない。

平面は前記の状況から明確にし難い。現存の南北長約5.5m, 同東西長3.5mと推定(方形を想定しての計測)される。壁は遺存状態の良好な北で現存高約60cm, ほぼ直立するが上部は乱れていた。壁下には幅15~20cm, 深さ9cm程の壁溝が設けられていたが, 西辺は2条が平行しており建て替え改造の可能性が推察された。床



S-13

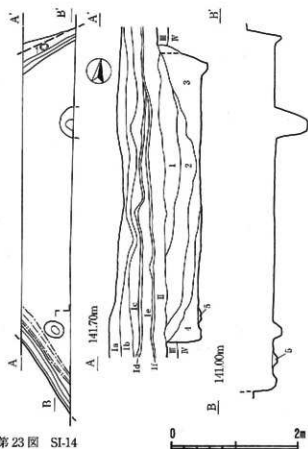
- 1a 黒砂色土 (SY93/2) 新石土
- 1b 砂礫層土 (SY93/0) 礫層土
- 1c 礫土 (SY94/1) 礫層土
- 2 礫層土 (SY93/2) 砂 (1-10mm) 30% 含む, ロ-A 礫層
- 3 礫層土 (SY93/2) 砂 (1-10mm) 20%, 河砂 (15-40mm) 30%, LP (1-5mm) 5%, SP (1-10mm) 2% 含む
- 4 礫層土 (SY93/2) ロ-A 礫 (1-10mm) 20%, 河砂 (15-40mm) 30% 含む, 礫層土
- 5 礫層土 (SY93/2) ロ-A 礫 (1-10mm) 30%, 河砂 (15-40mm) 20%, LP (1-10mm) 3% 含む, 礫層土
- 6 礫層土 (SY93/2) 河砂 (15-40mm) 30%, 河砂 (15-40mm) 30%
- 7 砂礫層 (15-10mm)
- 8 礫層土 (SY93/2) ロ-A 礫 (1-10mm) 30%, 河砂 (15-40mm) 40% 含む, 礫層土



S-13 カマダ

- 1 礫層土 (SY93/2) ロ-A 礫 (1-10mm) 8%, 礫色粘土 (SY7/1) 礫 (1-10mm) 20% 含む
- 2 礫層土 (SY93/2) ロ-A 礫 (1-10mm) 15%, 礫色粘土 (SY7/1) 礫 (1-10mm) 10%, 礫土層 (1-10mm) 40% 含む
- 3 礫層土 (SY94/0) 礫土層 (1-10mm) 礫土層, 礫土層
- 4 礫層土 (SY93/2) 礫土層 (1-10mm) 礫土層, 礫土層
- 5 礫層土 (SY93/2) 礫土層 (1-10mm) 30%, ロ-A 礫 (1-10mm) 10%, 礫色粘土 (1-10mm) 20% 含む, 礫層土
- 6 礫層土 (SY93/2) 礫土層 (1-10mm) 20%, 礫色粘土 (SY93/2) 礫 (1-10mm) 20%, ロ-A 礫 (1-10mm) 10%, 礫色粘土 (SY7/1) 礫 (1-10mm) 10%, 礫層土 (SY93/2) 20% 含む, 礫層土
- 7 礫層土 (SY93/2) 礫色粘土 (SY7/1) 礫 (1-10mm) 20%, 礫色粘土 (SY93/2) 礫 (1-10mm) 20%, ロ-A 礫 (1-10mm) 10%, 礫色粘土 (SY7/1) 礫 (1-10mm) 10%, 礫層土 (SY93/2) 20% 含む, 礫層土
- 8 礫層土 (SY93/2) 礫土層 (1-10mm) 30%, 礫色粘土 (SY7/1) 礫 (1-10mm) 10%, 礫層土 (SY93/2) 20% 含む, 礫層土
- 9 礫層土 (SY93/2) 礫土層 (1-10mm) 30%, 礫色粘土 (SY7/1) 礫 (1-10mm) 10%, 礫層土 (SY93/2) 20% 含む, 礫層土
- 10 礫層土 (SY93/2) ロ-A 礫 (1-10mm) 40% 含む, 礫層土

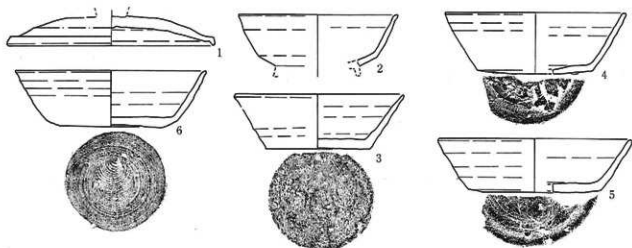
第22図 SI-13・カマダ



S-14

- 1a 礫層土 (SY94/1) 礫層土
- 1b 礫層土 (SY94/1) 礫層土, 礫層土
- 1c 礫層土 (SY93/1) 礫層土
- 1d 礫層土 (SY93/0) 礫層土, 礫層土, 礫層土
- 1e 礫層土 (SY94/1) 礫層土
- 1f 礫層土 (SY93/0) 礫層土, 礫層土, 礫層土
- 2 礫層土 (SY93/2) ロ-A 礫 (1-10mm) 10%, LP (1-10mm) 5% 含む, 礫層土
- 3 礫層土 (SY93/2) ロ-A 礫 (1-10mm) 20%, 河砂 (15-40mm) 30% 含む
- 4 礫層土 (SY93/2) ロ-A 礫 (1-10mm) 15%, 河砂 (15-40mm) 30% 含む
- 5 礫層土 (SY93/2) ロ-A 礫 (1-10mm), 河砂 (15-40mm) 40% 含む

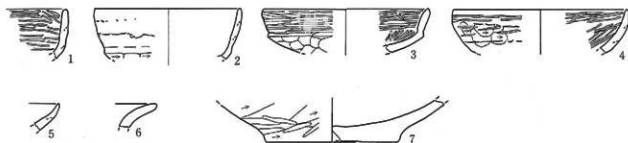
第23図 SI-14



第24图 SI-06 出土遗物



第25图 SI-07 出土遗物



第26图 SI-09 出土遗物



第27图 SI-11 出土遗物



第28图 SI-10 出土遗物

第29图 SI-13 出土遗物

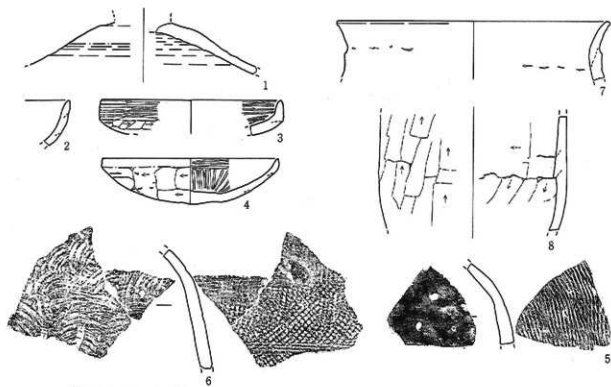


No.	種別 器種	大きさ(cm) 口径・高さ・底径	造存度	造形・手法等	胎土・焼成・色調	出土位置・備考
SI-06 ②	須恵器 坏	口径 (13.3) 器高 4.3 底径 8.2	60%	ロクロ整形、底部起し後ヘラ割り	胎土 粗砂粒混、玄母、白色粒、 赤褐色粒目立つ 焼成 灰 色調 内外灰色	床下
SI-06 ④	須恵器 坏	口径 (14.3) 器高 4.7 底径 (9.2)	25%	ロクロ整形、底部ヘラ起し	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 内外灰色	床下(3)、口辺部外周、障 灰が暗灰色に発色
SI-06 ⑤	須恵器 坏	口径 (15.2) 器高 4.2 底径 (8.0)	30%	ロクロ整形、底部ヘラ起し後ヘ ラ割り、見込み中央に施成前の 圧痕、シタツ?	胎土 粗砂粒混、白色粒目立つ 焼成 良 色調 内外灰色・オリーブ黄	床下
SI-06 ⑥	須恵器 坏	口径 14.9 器高 4.3 底径 7.9	70%	ロクロ整形、底部糸切り後外周 ヘラ割り	胎土 粗砂粒混(6mm)混、白色粒目 立つ 焼成 良 色調 内外 明黄褐色、一部灰色	床下(1)
SI-06 ⑦	土師器 高坏	口径 11.4 器高 5.2 底径 —	60%	紐づくり、坏部内面ウルクシ処 理、ミガキ、外面口辺部積ナ デ、体・底部胎土粒目立つ	胎土 粗砂粒混、白色粒目立つ 焼成 良 色調 内外 褐色・暗褐色、黒褐色	床下(6)、二次火熱でウル シ処理、器面黄褐色劣化
SI-07 ①	土師器 坏	口径 13.6 器高 4.6 底径 —	100%	紐づくり、口辺部内外面積ナデ 後ミガキ、外面の体・底部ヘラ 割り後粗いミガキ、ウルクシ処理	胎土 粗砂粒混、白色粒目立つ 焼成 良 色調 内 黒色・黒褐色 外 黄褐色・暗褐色	床下(1)
SI-09 ①	土師器 坏	口径 — 器高 — 底径 —	断片	紐づくり、口辺部内外面積ナデ 後ミガキ、外面の体部ヘラ割り 後粗いミガキ、ウルクシ処理	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 内 黒褐色 外 暗褐色	瓶粒土
SI-09 ②	土師器 坏	口径 — 器高 (11.4) 底径 —	断片	紐づくり、口辺部内外面積ナ デ、体部ヘラ割り	胎土 粗砂粒混、白色粒目立つ 焼成 良 色調 内外 灰色	瓶粒土
SI-09 ③	土師器 坏	口径 (13.0) 器高 — 底径 —	断片	紐づくり、口辺部内外面積ナデ 後ミガキ、体部ヘラ割り、ウルク シ処理	胎土 粗砂粒混 焼成 普 色調 内 褐色 外 黒褐色・暗褐色	瓶粒土
SI-09 ④	土師器 坏	口径 (13.7) 器高 — 底径 —	断片	紐づくり、口辺部内外面積ナデ 後ミガキ、体部ヘラ割り後粗い ミガキ、ウルクシ処理	胎土 砂粒混 焼成 普 色調 内 暗褐色 外 黒褐色・褐色	瓶粒土
SI-09 ⑤	土師器 高坏	口径 — 器高 — 底径 —	断片	紐づくり、口辺部内外面積ナデ 後ミガキ、体部ヘラ割り後粗い ミガキ、ウルクシ処理	胎土 粗砂混・赤褐色粒目立つ 焼成 良 色調 内 黒褐色 外 暗褐色	埋輪土
SI-09 ⑥	土師器 甕	口径 — 器高 — 底径 —	断片	輪積み、口辺部内外面積ナデ	胎土 砂粒混 焼成 良 色調 内外 灰色	埋輪土
SI-09 ⑦	土師器 栗or鉢	口径 — 器高 — 底径 (10.5)	底断片	輪積み、内面ナデ、外面体・底 部ヘラ割り後ナデ	胎土 粗砂粒混、白色粒目立つ 焼成 良 色調 内 黒色 外 黄褐色	瓶粒土・内面の黒色化意図的か
SI-10 ①	土師器 栗or瓶	口径 — 器高 — 底径 —	断片	輪積み、口辺部内外面積ナデ、 体部ヘラ割り	胎土 砂粒混 焼成 良 色調 内 黄褐色 外 黒色・黄褐色	瓶粒土
SI-11 ①	土師器 高坏	口径 10.6 器高 4.4 底径 —	80%	紐づくり、口辺部内外面積ナデ 後ミガキ、体・底部ヘラ割り、 ウルクシ処理	胎土 粗砂粒混、白色粒目立つ 焼成 良 色調 内 黒色・黄褐色 外 黒褐色・褐色	床下、内底に「×」の暗文
SI-11 ②	土師器 坏	口径 (12.5) 器高 — 底径 —	30%	紐づくり、口辺部内外面積ナデ 後ミガキ、体・底部ヘラ割り後 粗いミガキ、ウルクシ処理	胎土 粗砂粒混、白色粒目立つ 焼成 良 色調 内 褐色・黒褐色 外 赤褐色・黒褐色	埋輪土

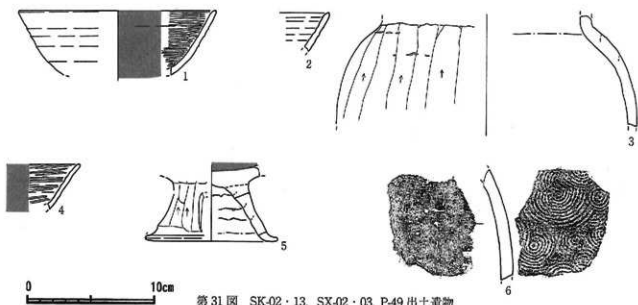
No	種別 器種	大きさ(cm) 口径・高さ・底径	遺存度	整形・手法等	胎土・焼成・色調	出土位置・備考
SI-13 ①	土師器 埴	口径 — 器高 — 底径 —	断片	紐づくり、口辺部内外面横ナデ 後ミガキ、体部ヘラ削り	胎土 砂粒混 焼成 良 色調 内外にぶい黄褐色	埋蔵土
SI-13 ②	土師器 埴	口径 — 器高 — 底径 —	断片	紐づくり、整形不詳	胎土 砂粒混・黒色粒目立つ 焼成 普 色調 内 褐色 外 褐色・灰色	埋蔵土
SI-14 ①	須恵器 甕	口径 — 器高 — 底径 —	30%	ロクロ整形、甲の内側ヘラ削り、フマミを欠損	胎土 砂粒混 焼成 普 色調 内外 淡灰色	埋蔵土
SI-14 ②	土師器 埴	口径 — 器高 — 底径 —	断片	紐づくり、口辺部内外面横ナデ	胎土 砂粒混 焼成 良 色調 内外 黒褐色・ぶい黄褐色	埋蔵土
SI-14 ③	土師器 埴	口径 (14.1) 器高 — 底径 —	断片	紐づくり、口辺部内外面横ナデ 後ミガキ、体部ヘラ削り、内面 黒色処理	胎土 砂粒混 焼成 良 色調 内 黒色 外 黒褐色	埋蔵土
SI-14 ④	土師器 埴	口径 13.9 器高 3.6 底径 —	95%	紐づくり、口辺部内外面横ナデ 後ミガキ、体・底部ヘラ削り後 上部細いミガキ、ワルシ処理	胎土 砂粒混 焼成 良 色調 内 黒褐色・暗褐色	埋蔵土
SI-14 ⑤	須恵器 甕	口径 — 器高 — 底径 —	断片	輪積み、ロクロ整形、外面平行 叩き目文、内面断文鳥具痕、ナ デ留ス	胎土 硝長・白色細粒目立つ 焼成 良 色調 内 青灰色 外 黒灰色 胎 黒赤褐色	埋蔵土、外河降灰しもふり灰
SI-14 ⑥	須恵器 甕	口径 — 器高 — 底径 —	断片	輪積み、外面格子目文叩き、内 面同心目文鳥具	胎土 粗砂粒混 焼成 普 色調 内外にぶい黄色	埋蔵土
SI-14 ⑦	土師器 甕	口径 — 器高 — 底径 —	断片	輪積み、口辺部内外面横ナデ	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 内 にぶい黄色 外 褐色	埋蔵土
SI-14 ⑧	土師器 甕	口径 — 器高 — 底径 —	断片	輪積み、体部外面縦のヘラ削り、 内面横ヘラナデ	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 内外 暗褐色・一部褐色・に ぶい黄色	埋蔵土

第3表 土坑・性格不明遺構出土遺物観察表

No	種別 器種	大きさ(cm) 口径・高さ・底径	遺存度	整形・手法等	胎土・焼成・色調	出土位置・備考
SK-02 ①	土師器 埴	口径 — 器高 — 底径 —	断片	ロクロ整形、内面黒色処理	胎土 砂粒混 焼成 良 色調 内 黒色 外 淡黄色	埋蔵土、二次火焔で黒色処理劣化
SK-13 ②	土師器 高埴	口径 — 器高 [5.8] 底径 (9.8)	40%	紐づくり、体部内面ミガキ、黒 色処理、脚部外面縦のヘラ削り、 基部横ナデ、脚部に2か所 長方形の透孔あり	胎土 砂粒混・白色粒目立つ 焼成 良 色調 体部内黒色・他は淡黄色	埋蔵土
SX-02 ③	土師器 埴	口径 (15.4) 器高 [5.1] 底径 —	断片	ロクロ整形、内面ミガキ、黒色 処理	胎土 砂粒混・白色粒目立つ 焼成 良 色調 内 暗褐色 外 淡黄色・暗褐色・淡灰色	埋蔵土、二次火焔で黒色処理 変色劣化
SX-03 ④	須恵器 埴	口径 — 器高 — 底径 —	断片	ロクロ整形	胎土 砂粒混・白色粒目立つ 焼成 良 色調 内外 灰色	埋蔵土、口辺部外面、降灰に よる変色
SX-03 ⑤	土師器 甕	口径 — 器高 — 底径 —	体残片	輪積み、体部外面ヘラ削り	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 内外 灰褐色	埋蔵土



第30図 SI-14 出土遺物



第31図 SK-02・13, SX-02・03, P-49 出土遺物

()推定値 []現存値

No.	種別 器種	大きさ(cm) 口径・高さ・底径	遺存度	整形・手法等	胎土・焼成・色調	出土位置・備考
SK-13 ⑤	土師器 高坏	口径 — 器高 [5.8] 底径 (9.6)	30%	紐づくり、坏部内面ウルクシ処理。脚部外面腹のヘラ削り、箱部横ナデ。内面横いナデで柱土織目立つ	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 坏部内面黒色・他黄褐色	黒粒土。脚部に長さ3cmの縦長方形の織し孔2か所か？
P-49 ⑥	須厚器 类	口径 — 器高 — 底径 —	断片	内面無文器具類。外面同心円文印き目	胎土 粗砂粒混 焼成 — 色調 内外 褐色 胎 黒色	黒粒土。二次火焼で内外面褐色

面はローム層中にあり、粗掘りの後黒色土混じりのロームで整地されていた。調査区内ではほぼ平坦で堅く締っていた。小穴は2口確認したが位置的に主柱穴とは決し難い状況である。カマドは調査範囲内では確認できなかった。

2. 掘立柱建物跡

今次調査区内では総数90口程の小穴を確認した。これらは規模・形状・埋積土の状態から柱穴（柱掘方）と推定されるものである。しかし調査区が道路及び水路予定地と限定されており、建物跡として掘えられたのは僅かに5棟であり、全体を調査し得たのは1×1間のSB-04が1棟のみである。

SB-01

遺構（第32図）

調査区南側、3E・F区に所在し北側は調査外に延びる。3間×2間以上の東西棟の側柱式で、棟方位はN-68°Eを示す。南辺の桁行は7.3m、柱間は東より1.8+1.75+1.75mでほぼ等間隔である。梁間は東で2.7m以上、確認できる柱間は東・西とも1.85mであった。柱掘方は径36～55cmの円形、深さは45～97cmとまちまちである。

SI-05・6を切っておりこれらより新しい。

遺物

埋積土中より土師器・須恵器が出土したが図示し得るものは無かった。

SB-02

遺構（第32図）

調査区の南西隅、1C、2D区に所在し、西と南側は調査区外に延びると推定される。確認できたのは東西1間2本の柱穴のみであるが、形状や深さなどから同一建物の柱穴と推定した。したがって建物の規模・形状は不明である。東西軸はN-71°Eを示す。両柱掘方ともSB-07の埋積土中にあり各々の規模は明確にし難いが、径85～90cmの円形で、深さ57～86cmである。柱間は2.65mであった。

遺物

埋積土中より土師器片の出土があったが図示し得るものはなかった。

SB-03

遺構（第32図）

調査区南西部、2C区に所在するが、北、西もしくは南が調査区外に延びると推定される。現状では北東辺の2間3本の柱掘方を確認したに過ぎない。したがって建物跡の規模・形状は明確にし難い。推定棟方位はN-39°Wを示す。確認し得た2間は1.8+1.85のほぼ等間隔であった。柱掘方は径35～70cmの楕円形で深さ28～73cm。隅の柱が深く掘り込まれたものかと推定される。

遺物

埋積土中より土師器片が出土したが、図示し得るものは無かった。

SB-04

遺構 (第 32 図)

調査区の中央西寄り、6・7E 区に所在する。1 間×1 間の側柱式で、南辺が狭い逆台形である。桁行は北辺が 2.65 m、南辺が 2.1 m、梁間は東辺が 2.05、西辺が 2.1 m であった。棟方位は N-82°-E を示す。柱掘方は径 35～45cm の楕円形で、深さは 30～55cm。

遺物

遺物の出土は無かった。

SB-05

遺構 (第 32 図)

調査区中央部西寄り、6C・7D 区に所在し、北、西、南の 3 方は調査区外に延びる。南北に 2 間、計 3 本の柱穴を確認したのみで、建物の規模形状は明確にし難い。柱間は 1.8 + 1.8 m の等間隔であった。現状での棟方位は N-7°-W を示す。掘方形は径 30～40cm の円形、深さは 40～60cm で両端が深い。北端は SI-09 を切る。

遺物

遺物の出土は無かった。

3. 土坑

調査区内より総数 17 基の土坑を確認した。平面は円形、楕円形の他不整形のものも見られた。断面形は底面がほぼ平らな鍋底状のものが主体であったが、2 段になるものや上部が削平されて底面のみのもも見られた。

SK-01

遺構 (第 33 図、図版 10)

調査区南部、3G 区に位置し、西側が SI-06 と重複しこれを切る。平面は東西長 145cm、南北長約 122cm の楕円形。深さ 20cm で壁はやや外傾する。底面は中央に向かって緩やかに下降し、径 15cm、深さ 25～35cm の小穴が 2 口認められた。

埋積土は単層で自然埋没と考えられる。

遺物

埋積土中より土師器片が出土したが、図示し得るものは無かった。

SK-02

遺構 (第 33 図、図版 10)

調査区南部、3・4F 区に所在し、南側が SI-05 と重複しこれを切っていた。平面形は東西長 138cm、南北長約 112cm の楕円形。深さ 15cm で壁はやや外傾する。底面はほぼ平坦であった。

埋積土は単層で自然埋没と考えられる。

遺物 (第 31 図)

埋積土中より土師器片が出土し、坏 1 点 (1) を図示した。

SK-03

遺構 (第33図, 図版10)

調査区南部, 3F区に所在し, 北半部は調査区外に延びる。平面形・規模は前記の状況から明確にし難いが, 東西長93cm, 現存南北長70cmで本来は南北に長い楕円形かと推定される。深さ12~18cmで, 壁はやや外傾する。底面に径12×26cmの楕円形で, 深さ12cmの小穴が1口認められた。

埋積土は2層に大別され, 自然埋没と考えられる。

遺物

遺物の出土は無かった。

SK-04

遺構 (第33図, 図版10)

調査区南西部, 2E区に所在し, 南半部は調査区外に延びる。平面形・規模は前記の状況から明確にし難いが, 東西長90cm, 現存南北長46cm, 円形もしくは楕円形と推定される。深さ27cmで, 壁は外傾する。底面は確認部分ではほぼ平坦であった。

埋積土は3層に大別され, 自然埋没と考えられる。

遺物

埋積土中より土師器片が出土したが, 図示し得るものは無かった。

SK-05

遺構 (第33図, 図版10)

調査区南西部, 2・3D区に位置する。平面形は南北長118cm, 東西長103cmの不整形である。深さ32~40cm, 壁は大きく外傾する。底面はほぼ平坦であった。

埋積土は2層に大別され, ロームを多く含み, 人為的埋没と考えられる。

遺物

埋積土中より土師器片が出土したが, 図示し得るものは無かった。

SK-06

遺構 (第33図, 図版11)

調査区南西部, 2E区に所在する。北西でSK-07と接するが新旧関係は明確にし得なかった。平面は北西・南東長115cm, 北東・南西長92cmの不整形楕円形である。深さ15~20cmで, 壁は外傾する。底面はほぼ平坦であった。

埋積土は単層で自然埋没と考えられる。

遺物

埋積土中より土師器片が出土したが, 図示し得るものは無かった。

SK-07

遺構 (第33図, 図版11)

調査区南西部, 2D・E区に所在し, 南東でSK-06と接するが新旧関係は明確にし得なかった。平面形は,

南北長 142cm, 東西長 108cm程で, 北に突出する不整五角形のような形状である。深さ 8 ~ 16cm, 壁はやや外傾する。底面はほぼ平坦であった。

埋積土は単層で自然埋没と考えられる。

遺物

埋積土中より土師器片が出土したが, 図示し得るものは無かった。

SK-08

遺構 (第 33 図, 図版 11)

調査区南西部, 2D 区に所在する。平面は南北長 124cm, 東西長 102cm の不整楕円形。深さ 10 ~ 13cm で, 壁はやや外傾する。底面はほぼ平坦であった。

埋積土は単層で自然埋没と考えられる。

遺物

埋積土中より土師器片が出土したが, 図示し得るものは無かった。

SK-09

遺構 (第 33 図, 図版 8)

調査区の中央部西寄り, 7D 区に所在し, 北西で SI-09 と重複しこれを切る。平面は東西長 110cm, 南北長 130cm の楕円形。深さ 10 ~ 15cm, 壁は僅かに外傾する。底面はほぼ平坦であった。

埋積土は単層で自然埋没と考えられる。

遺物

埋積土中より土師器片が出土したが, 図示し得るものは無かった。

SK-10

遺構 (第 34 図)

調査区の中央部西端, 6D 区に所する。北で SB-05 の P-51 と重複しこれを切る。平面は南北長 64cm, 東西長 72cm のほぼ円形。深さ 15cm で, 壁は外傾する。底面はほぼ平坦だが北西から南東に向ってやや下降する。

埋積土は単層で自然埋没と考えられる。

遺物

遺物の出土は無かった。

SK-11

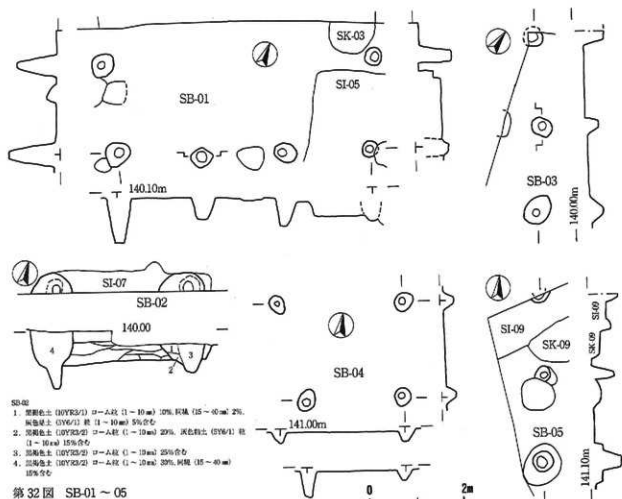
遺構 (第 34 図)

調査区の中央部西端, 6E 区に所在する。平面は南北長 66cm, 東西 72cm の円形。深さ 10cm で, 壁は外傾する。底面はほぼ平坦であった。

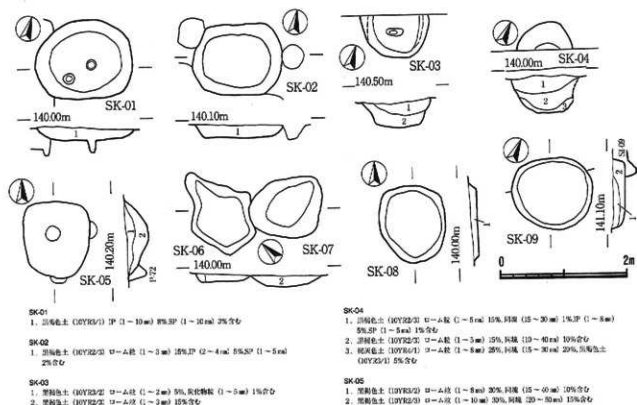
埋積土は単層で, 遺物の出土は無かった。

遺物

埋積土中より土師器片が出土したが, 図示し得るものは無かった。



第32图 SB-01~05



第33图 SK-01~09

SK-12

遺構 (第34図)

調査区の中央部西寄りに所在する。平面は東西長98cm, 南北長78cmの楕円形。上部は削平されていて、深さ3~5cm, 壁は外傾する。底面はほぼ平坦であった。

埋積土は単層で自然埋没と考えられる。

遺物

遺物の出土は無かった。

SK-13

遺構 (第34図, 図版11)

調査区の中央部北寄り, 7E・F区に所在する。平面は南北長128, 東西長112cmのほぼ円形。底面は2段に掘り込まれており, 中央の深さ10~15cmのところに, 径約55cmの円形で深さ15cm程の掘り込みがある。

埋積土は2層に大別され, 下層はローム粒・塊を多く含み人為的埋没と考えられる。

遺物 (第31図, 図版14)

埋積土中より脚部に透かし孔のある土師器高杯(5)の破片が出土している。

SK-14

遺構 (第34図, 図版11)

調査区の中央部東寄り, 7G区に所在し, 東でP-49と接するが新旧関係は明確でない。平面は東西長124cm, 南北長93cmの楕円形。底面は2段になっており, 浅い東寄りの14aを西の14bが切っている。なお, 14bは土層観察の結果柱掘方の可能性が高い。14aは深さ10cmで壁はやや外傾する。底面はほぼ平坦で, 埋積土は単層の自然埋没と考えられる。14bは深さ28cm, 壁は大きく外傾し, 底面はほぼ平坦であった。

埋積土は4層に大別され, 東寄りに柱痕らしき土層が見られた。

遺物

埋積土中より土師器片が出土したが図示し得るものは無い。

SK-15

遺構 (第34図)

調査区の中央部, 6・7E区に所在する。上部が削平されていて, 底面付近のみ遺存する。平面は南北長65cm, 東西長57cm隅丸長方形。深さ10cmで, 壁は遺存せず底面の北寄りが凹む状態と考えられる。

埋積土は単層で自然埋没と判断される。

遺物

前記の事情から遺物の出土は無かった。

SK-16

遺構 (第34図, 図版11)

調査区の南東部, 4H区に所在し, 東はSI-04と重複し, これを切っていた。平面は径約88cmの円形。深さ15~20cm, 壁はやや外傾する。底面はほぼ平坦であった。

埋積土は単層で自然埋没と考えられる。

遺物

遺物の出土は無かった。

SK-17

遺構（第34図）

調査区の南東隅、4I区に所在し、SI-04と重複してこれを切る。平面は南北長73cm、東西長65cmの不整形。深さ42cmで壁は外傾する。底面はほぼ平坦であった。

遺物

遺物の出土は無かった。

4. 小穴

前述の如く調査区内より約100口の小穴を確認したが、調査区が限定された範囲であることから、建物跡を想定できたものは極少数であった。したがってここでは計測表（47頁第4表）として報告する。

5. 性格不明遺構

焼土やカマド部材の粘土、石などの出土によって一旦は住居跡を想定したがそれを裏付ける資料に乏しく、性格不明の遺構として報告する。

SX-01（旧SI-08）

遺構（第34図、図版11）

調査区の中央部、7E区に所在し、北半部は調査区外に延びる。東西長98cm、現存南北長96cmの半円形に焼土が認められた。確認当初はカマドの痕跡を想定したが、袖部の痕跡や火床下の掘り込みなども認められなかった。また、炉跡としても周囲に明確な床面や柱穴、壁溝なども見られず、性格不明遺構とした。

遺物

遺構確認面において土師器片が見られたが図示し得るものは無かった。

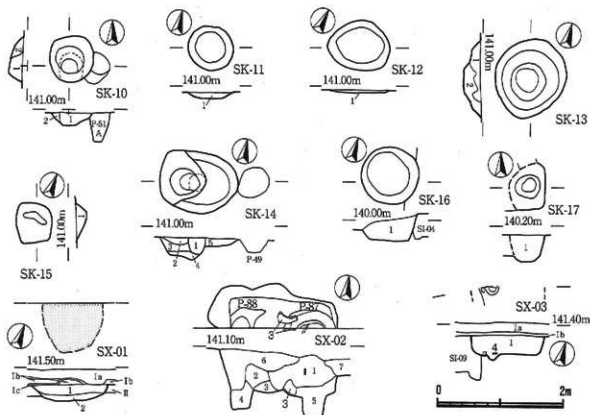
SX-02（旧SI-12）

遺構（第34図、図版9）

調査区の中央部西端、6D区に所在し、南側の大部分は調査区外に延びると考えられる。確認当初、東西長205cm、現存南北長68cmの範囲に灰色の粘土主体の部分が認められ、北壁に構築されたカマドの先端部かと思われた。埋積土中より火熱を受けた土師器甕の破片が出土しその観を強くした。しかし、調査の進捗に伴い、東・西両側に小穴が確認されるなど、カマド（煙道）先端部としては想定し難い状況となってしまう。性格不明遺構として報告する。なお、東西の小穴の間に見られる浅い掘り込みがカマドの痕跡で、その後相次いで小穴（P-87・88）が掘り込まれた可能性も否めない。

遺物（第31図）

埋積土中より須恵器坏1片（2）と同一個体と思われる土師器甕3片（3）が出土した。



SK-06

1. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-10m) 15%, 砂層 (15-20m) 5%含む

SK-07

1. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-10m) 15%, 砂層 (15-20m) 5%含む

SK-08

1. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-8m) 15%, 砂層 (15-30m) 5%含む

SK-09

1. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-5m) 8%含む
2. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-10m) 15%, 砂層 (15-30m) 10%含む

SK-10

1. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-8m) 10%含む
2. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-10m) 20%, 砂層 (15-30m) 20%含む

SK-11

1. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-10m) 15%含む

SK-12

1. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-2m) 5%含む

SK-13

1. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-2m) 10%含む
2. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-10m) 20%, 砂層 (10-15m) 10%含む

SK-14

1. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-10m) 5%含む, 小穴?
2. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-2m) 5%含む
3. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-10m) 15%, 砂層 (15-20m) 3%含む
4. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-10m) 20%, 砂層 (15-20m) 5%含む
5. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-5m) 15%, 砂層土 (OYR2/1) 15%含む

SK-15

1. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-10m) 25%, 砂層 (15-25m) 10%含む

SK-16

1. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-5m) 10%, P (1-15m) 8%, SP (1-10m) 5%含む

SK-17

1. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-10m) 10%, 砂層 (15-30m) 5%, P (1-5m) 5%, SP (1-10m) 5%含む

SX-01 (面 S-08)

1. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-2m) 2%, 白色土 (1-2m) 1%含む
2. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-5m) 5%, 粘土・砂 (1-30m) 20%含む

SX-02 (面 S-12)

1. 汎褐色土 (OYR2/2) 白色土 (OY7/1) 砂層 (1-50m) 30%, 粘土・砂 (1-30m) 15%含む, 動物骨を含む
2. 汎褐色土 (OYR2/2) 灰色土 (OY6/1) 砂 (1-10m) 15%, 流石土 (1-10m) 10%, ロ-A段 (1-10m) 5%含む
3. 汎褐色土 (OYR2/2) 灰色土 (OY6/1) 砂・流石 (1-30m) 20%, 粘土・砂 (1-25m) 10%含む
4. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段・流石 (1-40m) 25%, 灰色土 (OY6/1) 砂 (1-10m) 5%含む
5. 汎褐色土 (OYR2/2) 灰色土 (OY7/1) 砂 (1-10m) 20%, 粘土・砂 (1-10m) 15%, ロ-A段 (1-10m) 5%含む
6. 汎褐色土 (OYR2/2) 粘土・砂層土 (OY7/1) 砂 (1-10m) 5%, 粘土・砂 (1-10m) 10%含む
7. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-10m) 5%, 灰色土 (OY6/1) 砂 (1-8m) 10%, 流石土 (1-5m) 5%含む

SX-03

1. 汎褐色土 (OYR2/2) ロ-A段 (1-10m) 15%, 白色土 (OY7/1) 砂 (1-10m) 10%, 粘土・砂 (1-5m) 5%含む

第34図 SK-10~17, SX-01~03

第4表 小穴計測表

単位 cm () 推定値 [] 現存値

No	Gr	東西長	南北長	深さ	備考	No	Gr	東西長	南北長	深さ	備考
01	3E	44	[40]	61	土師器	47	7F	18	21	28	
02	3E	47	55	84	SB-01, 土師器	48	7G	21	19	24	
03	3E	48	46	21		49	7G	48	48	20	須恵器, 土師器
04	3E	50	46	11	土師器	50	6G・H	46	72	40	
05	2・3E	52	50	97	SB-01, 土師器	51A	6D	40	[31]	47	SB-05, <SK-10
06	2E	32	30	30		51B	6D	[22]	[30]	20	<SK-10
07	3E	49	38	46	SB-01	52A	6D	43	44	59	SB-05
08	3E	57	48	33		52B	6D	23	20	32	
09	3E・F	49	39	49	SB-01	53	6・7G	50	50	44	
10	3E	32	31	16		54	6・7G	29	45	40	
11	2E	45	31	32		55	7F・G	41	46	18	
12	2E	39	45	25		56	7F	47	42	30	
13	3D	44	34	39.5		57	7F	28	33	22	
14	3D	53	37	36		58	7G	24	25	9	
15	3D	38	24	36		59	7D	[49]	[15]	53	SB-05, SI-09<
16	2・3D	40	33	27		60	6E	32	21	10	
17A	2D	34	33	22		61	7F	36	39	32	
17B	2D	[31]	28	18		62	7・8G	45	53	31	
18	2D	58	35	51		63	8G	37	37	10	
19	2D	48	32	32		64	3・4H	36	51	21	
20A	2C	35	38	41		65	3・4H	47	43	32	
20B	2C・D	[22]	[24]	16		66	3H	44	28	30	
21	2C	47	43	74	土師器	67	8G	37	32	46	
22	2C	33	30	29		68	8G	32	33	44	
23	2C	62	54	44		69	3E	[60]	67	85	
24	2C	47	46	65		70	3D	38	[17]	24	
25	2C	44	37	28	SB-03	71	2・3D	32	28	18	<SK-05
26	2C	[38]	[34]	46	SB-03	72	2D	28	30	11	<SK-05
27	2D	39	41	21		73A	2D	31	[18]	29	
28	2D	36	40	27		73B	2D	30	28	38	
29	2C	[13]	[51]	37		74	2D	53	55	24	
30	2C	52	68	91	SB-03	75	2C	41	40	23	
31	2D	36	24	27		76	2D	19	46	15	
32	2D	57	[33]	57	SB-02, SI-07<	77	2C	31	38	11	
33	1C	68	[33]	81	SB-02, SI-07<	78	2・3E・F	36	33	23	
34	3F	34	37	69	土師器	79	3F	[26]	36	40	SB-01, SI-05<
35	3F	27	[22]	19		80	3F	39	34	92	SI-05・06<
36	3・4F	39	47	53	SB-01	81	3F	22	28	51.8	SI-05・06<
37	3・4F	34	37	20		82	6G	23	24	24	
38	6E	38	33	39		83	8A	42	24	18	
39	6E	34	38	34	SB-04	84	7A	21	28	15	
40	7E	28	45	27	SB-04	85	7A	33	34	28	
41	6E	34	47	57	SB-04	86	7A	[52]	30	34	
42	7E	36	44	22	SB-04, 土師器	87	6D	[41]	[25]	33	
43	7F	47	43	35		88	6D	[20]	[13]	27	
44	7F	45	38	20		89					
45	7F	32	35	22		90					
46	7F	28	26	20		91					

SX-03

遺構 (第34図)

調査区の中央部、7D・E区に所在し、土層断面による想定である。西側はSI-09と重複しこれを切っている。土層断面での観察では東西長約120cm、深さ30cm。先行するSI-09の東壁と接する付近の遺構に径22cm、深さ10cm程の小穴を確認し、その上面より内面黒色処理の土師器坏片と火熱を受けたカマド部材と思われる軟質の石材が遺存した。確認当初はカマドの痕跡かと思われたが、周辺にそれを裏付ける資料が得られず性格不明遺構とした。

遺物 (第31図)

前記の土師器坏(4)と火熱を受けた凝灰岩片のみで、土師器坏も火熱により変色していた。

第5表 調査区内出土遺物観察表

() 測定値 [] 現存値

No	種別 種類	大きさ(cm) 口径・高さ・底径	遺存度	整形・手法等	胎土・焼成・色調	出土位置・備考
他 ①	縄文土器 深鉢	口径 — 器高 — 底径 —	断片	流状口沿、帯縄文に指状の突起を貼り付けた安行1式期の桔槌土器	胎土 細砂粒混 焼成 良 色調 内外 暗褐色・褐色	調査区内
他 ②	石器 打製石斧	現存長[0.2] 重量 1137g	80%	分銅形、片面に自然面残す	胎土 — 焼成 — 色調 —	調査区内
他 ③	石器 打製石斧	現存長[0.4] 重量 218g	90%	分銅形、両面に自然面残す。手製品か	胎土 — 焼成 — 色調 —	調査区内
他 ④	灰土器 甕	口径 — 器高 — 底径 —	断片	ロクロ整形、口縁外面に1単位9条の指状による波状文2段認める	胎土 赤褐色・白色紋目立つ 焼成 良 色調 内 灰灰色 外 暗灰色	調査区内、内面障灰による変色か
他 ⑤	瓦 男瓦	口径 — 器高 — 厚さ 1.6~1.8	断片	西面に布目、凸面腰ナデ、小口一酸化能	胎土 細砂粒混 焼成 ややあまい 色調 褐色	SD-1埋戻土、石
他 ⑥	瓦 男瓦	口径 — 器高 — 厚さ 1.5~2.4	断片	西面に布目、凸面腰ナデ、小口一酸化能、細輪二酸化能	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 褐色	調査区内
他 ⑦	瓦 女瓦	口径 — 器高 — 厚さ 1.7	断片	西面に布目、部分的にナデ、凸面輪押し	胎土 粗砂粒混 焼成 良 色調 内 灰白色 外 灰色・暗灰色	調査区内
他 ⑧	瓦 女瓦	口径 — 器高 — 厚さ 1.5	断片	西面に布目、部分的に腰の残り、凸面輪押し	胎土 細砂粒混 焼成 香 色調 凸 灰白色 凹 灰色	SD-1埋戻土、西面、断面にカーボン付着
他 ⑨	自然輪蓋	口径 — 器高 — 底径 —	断片	ロクロ成形、外面へラ削り	胎土 砂粒混 焼成 良 色調 内外 灰白色	調査区内、塚後部、12世紀代、外面に1か所の輪の残れ、窓アゲを認める。
他 ⑩	自然輪蓋	口径 — 器高 — 底径 —	断片	ロクロ成形、外面へラ削り	胎土 粉良 焼成 良 色調 内 灰白色 外 淡黄色	調査区内、塚後部、12世紀代、外面に3か所の輪の残れ、淡い火色を認める。
他 ⑪	白磁 鉢	口径 — 器高 — 底径 —	断片	ロクロ成形、内面に1単位6本の帯葉文、高台は細く高い、高台内は無輪	胎土 粉良 焼成 良 色調 乳白色の輪・胎は灰白色	2DG、中世西建築、内面に障灰を認める。12世紀後半代
他 ⑫	土師質土器 皿	口径 — 器高 — 底径 (6.8)	断片	ロクロ整形、底部糸切り後板目状圧痕、見込み掛おきえ	胎土 細砂粒含む 焼成 良 色調 内外 褐色	2DG
他 ⑬	土師質土器 内耳土鍋	口径 — 器高 — 底径 —	断片	口縁直下から耳を削り付する	胎土 砂粒混 焼成 良 色調 内 赤褐色 外 黒褐色土	2DG
他 ⑭	灰器 甕	口径 — 器高 — 底径 —	断片	輪押し、内面ナデ	胎土 砂粒を多く含む 焼成 良 色調 内 暗赤褐色 外 亮部の無い・暗褐色	SI-05埋戻土、産地不明、地方産か、外面に障灰

6. 調査区内出土遺物

遺構に伴わないが、縄文時代より中世にわたる遺物が出土した。特徴的なものを、第35図、第5表に示した。



第35図 調査区内出土遺物

Ⅲ まとめ

北の前遺跡は、南北約350m、東西約150m、50,000㎡程の範囲に及ぶ遺跡と推定され、今次調査区はその南西端にあたる。既に北半部の26,000㎡程が、宇都宮環状線及び宇都宮北道路の建設に伴い、平成3～6年にかけて県史文センターにより発掘調査が実施され、古墳時代から平安時代にわたる竪穴住居跡88軒、掘立柱建物跡15棟など他、中・近世の溝、掘立柱建物跡、地下式坑、井戸跡、土坑などが多数確認された。さらにこの調査地の南東部に接する地点で、集合住宅の建設に伴い平成7年に市教委が実施した調査では奈良・平安時代の住居跡4軒の他多数の中世遺構が調査された。

また、今次調査区の南側には、南北約200m、東西約150mの30,000㎡程を占めると推定される前田遺跡が所在する。こちらも上戸祭小学校の建設に伴い西半部の約15,000㎡が昭和62～63年にかけて市教委により発掘調査が行われ、古墳時代～平安時代にわたる竪穴住居跡161軒、掘立柱建物跡98棟などが確認された。

北の前遺跡の既調査地とは100m程の距離があるが、南側の前田遺跡の調査地は市道と隔てて隣接する位置にある。現在の遺跡の想定範囲はあくまでも便宜的なものであり、必ずしも当時の集落の実態と合致するものではない。両者が一体の遺跡（集落）と見ることも可能であろうし、今次調査区は地理的には前田遺跡の集落との関係が強く感じられる。

このような大規模な調査地の扶間にある今次調査区は、調査面積が約500㎡と狭い上に、宅地造成地の道路と水路部分という限定された調査区形状の為全体を調査し得た住居跡などは僅かである。したがって多くを語ることは出来ず、周辺の調査成果を援用しつつまとめとした。

1. 土地利用の変遷

縄文時代 調査区内では遺構は認められなかったが、後期末葉の安行Ⅰ式期の土器1片と打製石斧2点が出土している。南の前田遺跡でも遺構の確認は無かったが、該期の遺物が少量出土した。北の前遺跡においても遺構は確認されないが早期～晩期にわたる土器、石器が出土している。したがって、明確な痕跡は遺されていないが、何らかの形で土地利用がなされていたことが知られる。

弥生時代 今次調査区の北方約2.8kmには中期野沢式土器の標式遺跡である野沢遺跡が所在するが、今次調査区及び前田遺跡の調査では遺構・遺物とも全く認められなかった。北の前遺跡では遺構は確認されないものの少量の遺物が出土している状況である。

古墳時代 調査区内で7世紀前葉以降の9軒の竪穴住居跡を確認した。北の前遺跡では6世紀末葉からの居住が確認されているが、前田遺跡では7世紀中葉以降と判断され、北の前遺跡の方が先行して集落が営まれたことが知られる。なお、前田遺跡に集落がつくられた7世紀後葉～8世紀初めには北の前遺跡の該期の住居が減少する傾向が見られる。

奈良・平安時代 この時期の遺構としては8世紀末～9世紀代の3軒の竪穴住居跡と掘立柱建物跡、土坑などが確認された。確認された住居跡の総数が異なるので単純に比較はできないが、8世紀代には前田遺跡で62軒の住居跡が確認されたのに対して北の前遺跡は19軒と大きく減少している。殊に前田遺跡では8世紀前葉に21軒、北の前遺跡でも11軒と前後の時期とは格段の増加が見られる。前田遺跡の調査者は、集落内の住居跡より多数の瓦片が出土したことから、集落の南方で行われた瓦生産との関連を想定されている。今次調査区や北の前遺跡の調査においても瓦片が多く出土しているものの、瓦の様相が若干異なるようである。

9世紀代にはそれぞれ住居の減少はあるものの集落は存在するが、北の前遺跡では10世紀代、前田遺跡

では11世紀代で住居が消滅する。

中世 調査区内では明確な遺構は認められなかったが掘立柱建物跡・土坑の一部がその可能性をもつ。南側調査区内より白磁碗、妬器壺、内耳土器、土師質土器（カワラケ）などの遺物が極少量出土した。前田遺跡では遺構・遺物とも確認されていない。北の前遺跡では、県史文センター調査区、市教委調査区とも高密度で該期の遺構が確認され、多量の遺物が出土した。遺構は溝、掘立柱建物跡、井戸跡、地下式坑、土坑など多彩で、時期的には15世紀後葉以降と推定されている。溝による方形区画内に掘立柱建物跡を配した、「開発領主の屋敷」の存在が想定されている。なお、今次調査区では僅かな遺物の出土のみで遺跡の性格をうんぬんし得る状況にないが、中国福建窯産の白磁碗や地方窯産の妬器壺などが12世紀代まで溯るとすれば奥州平泉と平行する時期で、県内でも宇都宮城跡や足利市柳崎寺跡の他類例の極めて少ない特筆すべきものとして今後の課題とする。

近世・近代 当地は耕作地（水田）として利用されていたと推定される。東側調査区を南北に延びる溝跡（SD-1）は、上戸祭小学校の建設に際してコンクリート製のU字溝が設置されるまで利用されていたもので、上層には多量のプラスチック製品が堆積し、下層には近世・近代の陶磁器片が認められ、長期間にわたって灌漑用水路として利用されていたものと推察される。なお、調査区の壁面の土層観察を行った際、2層ないし3層に及ぶ水田の痕跡が認められ、繰返し水田がつけられたことが知られる。

2. 遺構・遺物の特徴

遺構 今次調査区では12軒の堅穴住居跡を確認したが、調査区が限定された形状であったことから、全体を調査し得たものはほとんど無い。かろうじて本来の規模を知り得るのはSI-03、04の2軒のみであった。部分的確認ではあるが、調査区内では南北長7.6mのSI-02が最大で、同5.4mのSI-01、東西長5.7mのSI-06などがこれに次ぐ。小形のものとしては、SI-03の3.4×3.3m、SI-04の3.6×3.2m、SI-07の東西長3.6mなどである。いずれも壁溝が設けられており、建て替えの行われたSI-05や14では壁溝の重複が認められた。SI-02は所謂間仕切溝に重複が見られる。主柱が確認できたのはSI-02、06、13で、ともに4本柱と考えられるが02は西側の2本、06は南東隅を除く3か所に認められ、06は建て替えによる重複が認められた。カマドは8軒で確認され、SI-04が東壁の他はすべて北壁に設けられていた。これらは壁を切り込み白色の粘土で築かれていたが、一部凝灰岩や河原石、土器片などを補強材として利用していたものも見られた。凝灰岩の利用はSI-02、04、07は土器片と河原石が利用されていた。殊にSI-02では最終時のカマドの笑口部の底部分に凝灰岩の切石、支脚に土師器鉢を転用、旧いカマドでも両袖の門柱部分に凝灰岩の切石が使用されていた。SI-05は左袖の門柱部分と支脚に凝灰岩の切石が利用されていた。

掘立柱建物跡として想定し得たのは僅かに5棟であるが、1×1間のSB-04を除きいずれも部分的なものであった。総数88口の小穴のうち確認面からの深さが60cmを超えるものもあり、あるいは中世以降のものが混在する可能性も否めない。

土坑類は円形のSK-01～03、16などの他楕円形、不整形のものもあるが総じて時期・性格等は明確にし難い。

遺物 遺物の主体は古墳時代から平安時代にわたる土師器類で、須恵器がこれに次ぐ。金属製品は不明鉄製品1点の他碗形滓が1点SI-05より出土した。フィゴの羽口等は認められませんが付近に鍛冶工房の存在が推察される。

文字資料は、SI-03の須恵器杯の底部外面に記された「男」もしくは「田+万」の合わせ文字の墨書が1

点である。「男」墨書については、北の前遺跡A-SI-20より須恵器坏の体部に記されたものが4点、A-SI-21より土師器坏の体部に記されたものが2点、A-SI-23からは須恵器壺のツマミ部分に記されたものが1点出土している。前田遺跡ではSI-102と103の土師器坏に「男」と記されたものが出土している。したがって、SI-03のものも「男」と判読すべかもしれない。また、関連資料として、明確な硯の出土は無いがSI-03より須恵器坏の底部、SI-05より須恵器壺の底部、壺の体部を利用した転用硯が出土している。

記号類としては、所謂ヘラ記号の記された須恵器は認められなかったが、SI-05の土師器坏の内底面に「×」が焼成前に印されたもの、SI-11の土師器坏の内面に暗文状に「×」が見られるものがあった。

P-49から出土の須恵器壺の体部片は二次火熱によって内外面橙色化していたが、外面に「同心円文」の叩きが認められた。本来内面の当具として使用すべきもので叩いており、内面には無文の当具が使用されていた。茨城県から千葉県にかけ類例が多く、山口耕一氏によれば県内では、宇都宮市前田遺跡、上三川町多功遺跡、多功南原遺跡、鳥田遺跡、下野市船越遺跡、薬師寺南遺跡、小山市金山遺跡など県南・県中部の旧河内郡内を中心に出土が認められるとのことである。時期的には8世紀中葉から9世紀初頭に位置付けられ、施文の理由としては「装飾」＝「特殊な容器としての目印」などが想定されている。

前田遺跡や北の前遺跡の既調査区と同様に男瓦・女瓦片が、SI-03・05、用水路(SD-01)の埋積土中より計7点出土した。残念ながら今回はいずれも細片で詳細は明確にし難い。

砥石はSI-02より1点出土し、流紋岩質凝灰岩と見られる。4面が利用され、一部に刃ぞろえの痕跡も認められた。所謂「網物鎌石」と見られる細長の河石が、SI-01より4点SI-05より5点出土した(第6表)。それぞれの住居での平均重量を比較すると、SI-01が556g、SI-02が400gとSI-02がやや小振りであった。

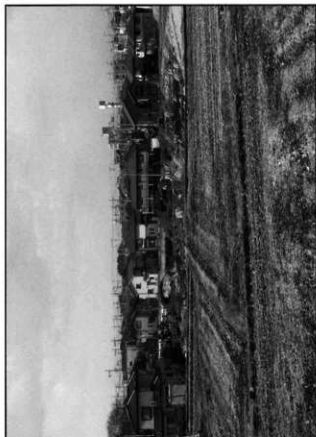
調査にあたり、調査に対しご理解を賜った事業主の御むぎくら様はじめ調査から整理・報告書作成に対してご助力を賜った各機関ならびに各位に深謝申し上げます。

参考・引用文献

- 川井正一 1988 「外面に同心円文叩きを有する須恵器について」『斐良岐考古10号』斐良岐考古同人会
- 梁木 誠、大塚雅之、今平利幸 1991 『前田遺跡』宇都宮市歴史文化財調査報告書第29集 宇都宮市教育委員会
- 山口耕一 1994 「北関東地域における茨城産須恵器について(上) - 外面同心円叩き目を有する須恵器を中心に」『研究紀要第2号』財団法人 栃木県文化振興事業団歴史文化財センター
- 山本信夫 1995 「11. 貿易陶磁器(中世前期の貿易陶磁器)」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編 福至閣社
- 富川 努 1996 「北の前遺跡」『宇都宮市文化財年報第12号』宇都宮市教育委員会
- 栃木県教育委員会 1997 『栃木県歴史文化財地図』
- 宇都宮市教育委員会 1997 『宇都宮市歴史文化財地図』
- 今平昌子 2003 「北の前遺跡」栃木県歴史文化財調査報告書第252集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生涯学習文化財団
- 大澤伸啓 2010 『41 榑崎寺跡』榑崎成社

第6表 網物鎌石計測表

No	長さ	幅	厚さ	重量	備 考	単位 cm, g ()推定値 []現存値					
						No	長さ	幅	厚さ	重量	備 考
1-1	[6.1]	5.6	4.8	[263]	(526) 50%欠	2-1	12.9	4.3	3.7	435	
1-2	11.5	4.5	4.6	462	462	2-2	13.5	5.3	3.9	387	
1-3	[12.9]	6.5	4.0	[509]	(539) 5%欠	2-3	10.1	5.8	4.3	316	
1-4	15.0	5.6	5.2	698		2-4	10.9	6.3	3.4	389	
平均	—	—	—	—	(556)	2-5	12.4	5.4	4.1	472	
						平均	—	—	—	400	



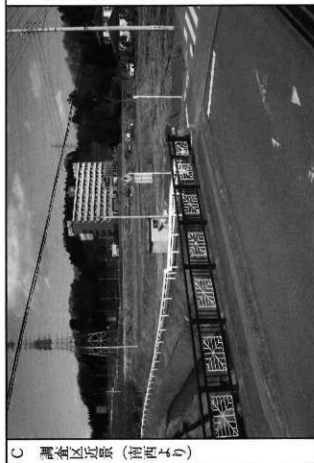
B 調査区近景 (東より)



A 調査区遠景 (東より)



D 調査区近景 (南東より)



C 調査区近景 (南西より)



B 東側調査区 (南より)



D 北側調査区 (西より)



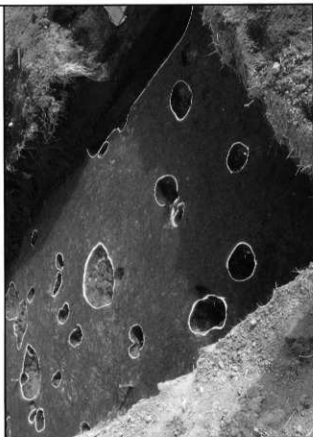
A 東側調査区 (北より)



C 北側調査区 (東より)



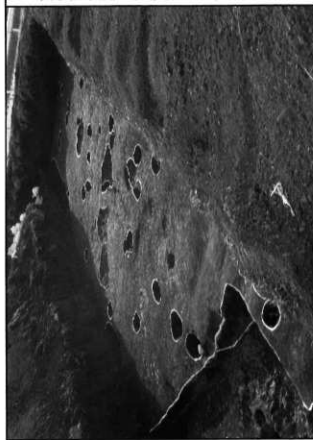
B 南側調査区 (西より)



D 南側調査区 前半 (北西より)



A 南側調査区 (東より)



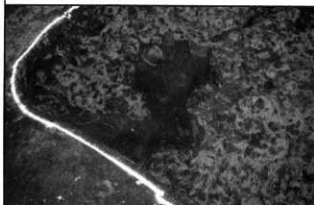
C 南側調査区 後半 (北東より)



A SI-01 完掘 (北より)



B SI-01 西半部土層 (南より)



C SI-01 北西隅出土土器 (西より)



D SI-02 完掘 (南より)



E SI-02 西半部土層 (南より)



F SI-02 カマド確認時 (南西より)



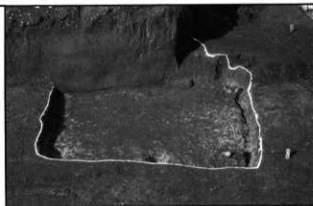
G SI-02 カマド土層 (西より)



H SI-02 カマド掘方 (南より)



A SI-02-P1 出土土器 (南西より)



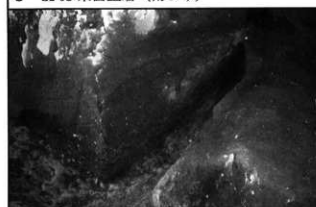
B SI-03 完掘 (南より)



C SI-03 東西土層 (南より)



D SI-03 カマド東半部完掘 (南より)



E SI-03 カマド掘方・土層 (南東より)



F SI-03 南東隅出土土器 (南より)

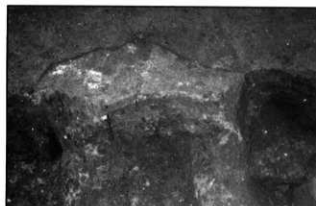


G SI-04 完掘 (南より)

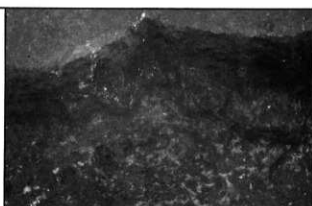


H SI-04 西半部土層 (南より)

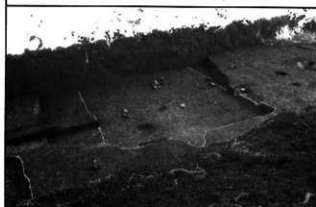
図版 6



A SI-04 カマド確認時 (西より)



B SI-04 カマド掘方 (西より)



C SI-05 完掘 (北より)



D SI-05 土層 (西より)



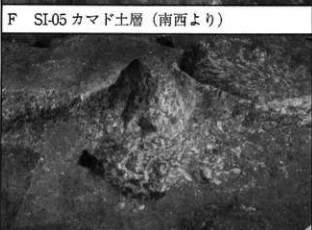
E SI-05 カマド確認時 (南より)



F SI-05 カマド土層 (南西より)



G SI-05 カマド完掘 (南より)



H SI-05 カマド掘方 (南より)



A SI-05 西南部出土土器 (南より)



B SI-05 床下の土層 (南西より)



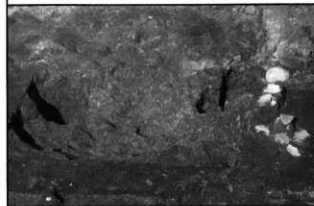
C SI-06 完掘 (北より)



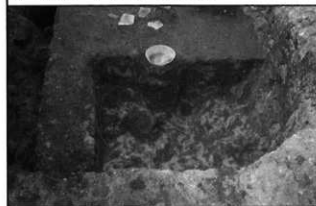
D SI-06 掘方 (北より)



E SI-06 カマド土層 (西より)



F SI-06 カマド掘方 (南より)

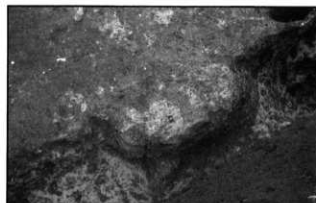


G SI-06 北東隅床下 (東より)

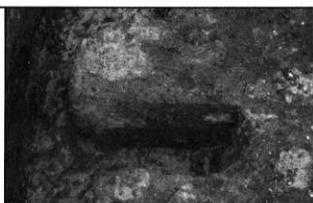


H SI-07 完掘・土層 (北より)

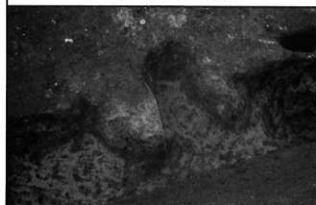
図版 8



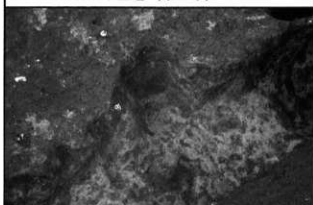
A SI-07 カマド確認時 (南より)



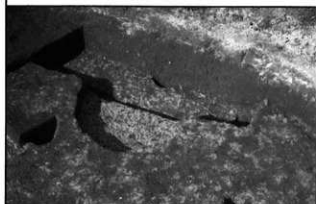
B SI-07 カマド土層 (東より)



C SI-07 カマド完掘 (南より)



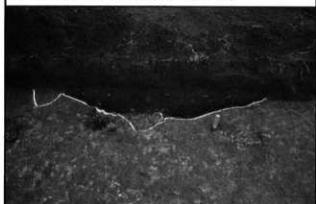
D SI-07 カマド掘方 (南より)



E SI-09・SK-09 完掘 (南東より)



F SI-09・SK-09 土層 (西より)



G SI-10・11 完掘 (北より)



H SI-10 完掘 (西より)



A SI-11 完掘 (東より)



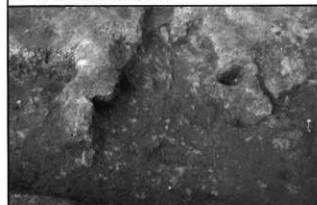
B SX-02 (旧 SI-12) 完掘 (北より)



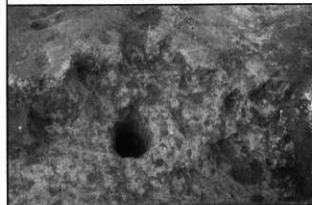
C SI-13 完掘 (南より)



D SI-13 カマド確認時 (南より)



E SI-13 カマド完掘 (南より)



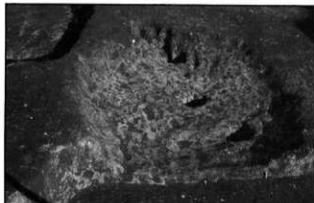
F SI-13 カマド掘方 (南より)



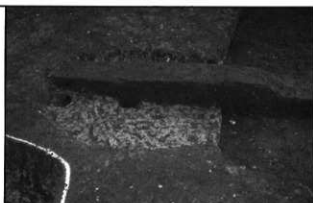
G SI-14 完掘 (南より)



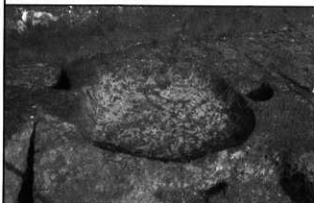
H SI-14 掘方 (南より)



A SK-01 完掘 (西より)



B SK-01 土層 (北より)



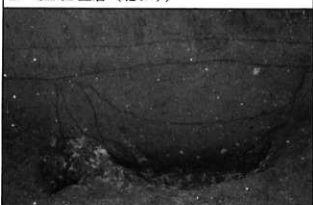
C SK-02 完掘 (南より)



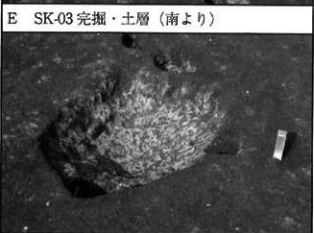
D SK-02 土層 (北より)



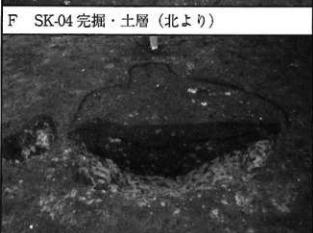
E SK-03 完掘・土層 (南より)



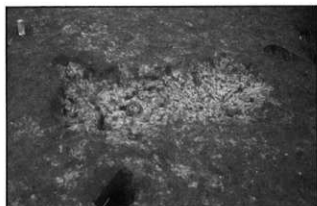
F SK-04 完掘・土層 (北より)



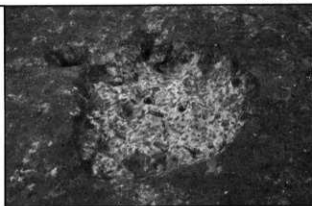
G SK-05 完掘 (南より)



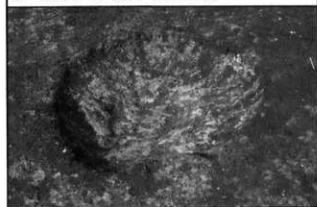
H SK-05 土層 (西より)



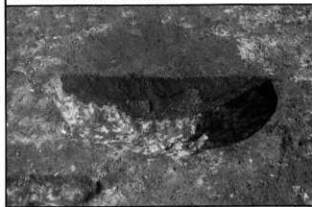
A SK-06・07 完掘 (南西より)



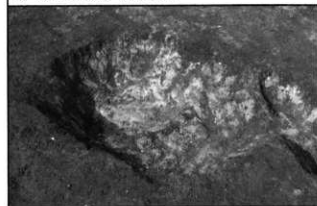
B SK-08 完掘 (南より)



C SK-13 完掘 (南より)



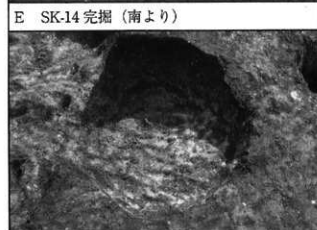
D SK-13 土層 (西より)



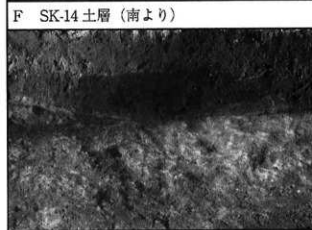
E SK-14 完掘 (南より)



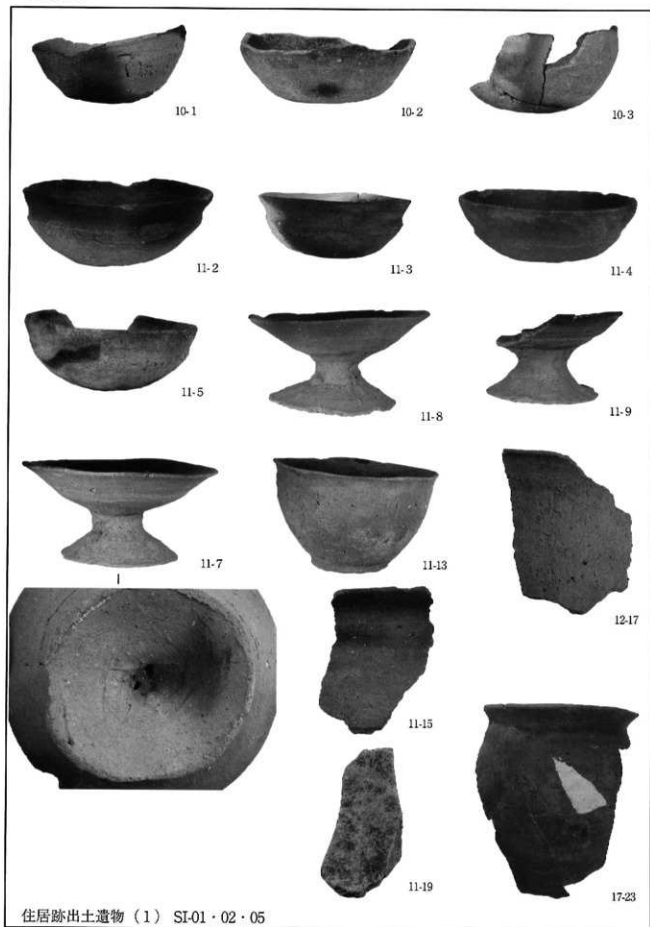
F SK-14 土層 (南より)

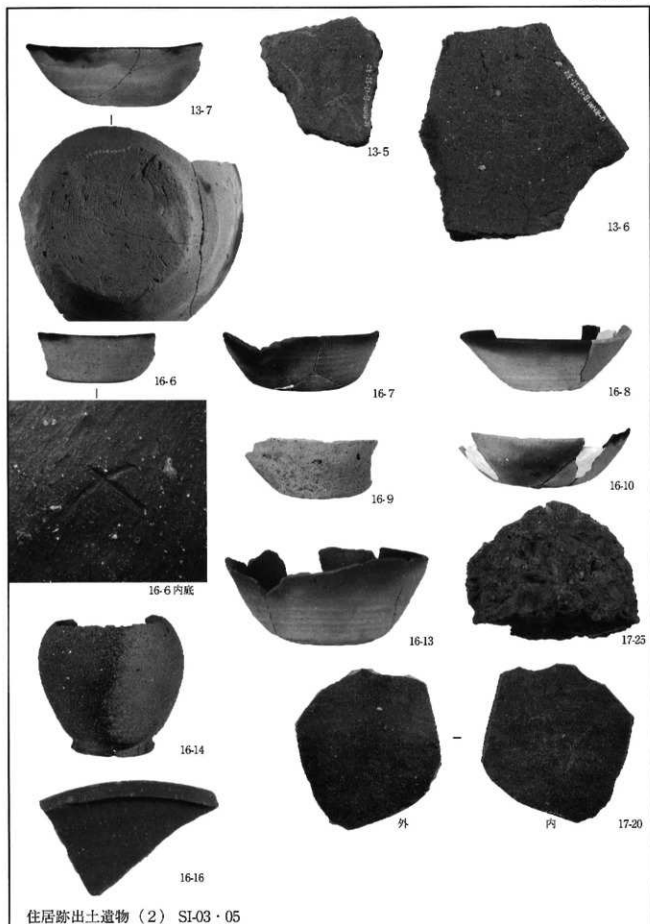


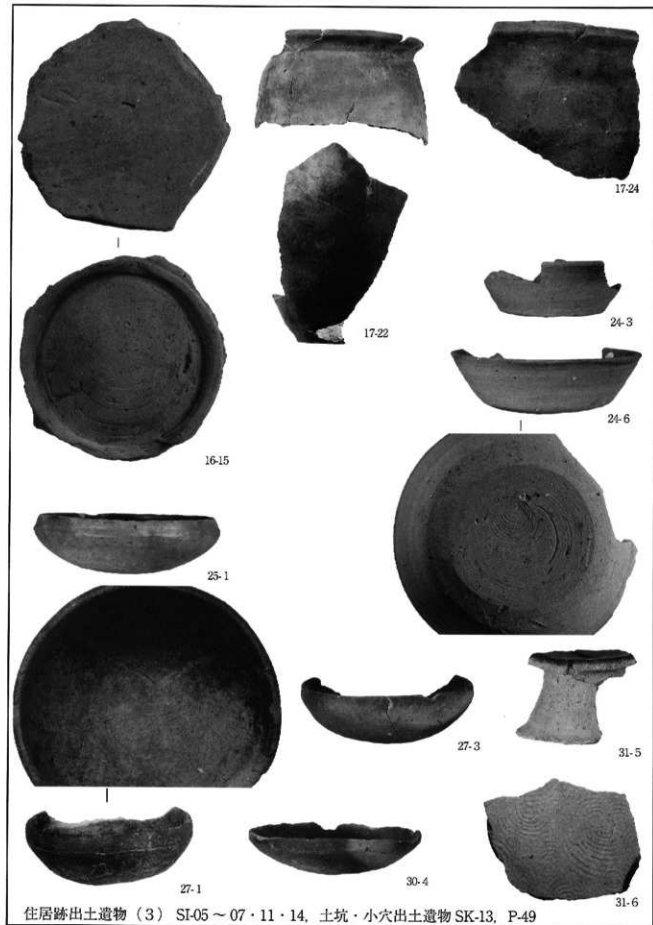
G SK-16 完掘 (南より)



H SX-01 (南より)









35-1



35-2



35-3



35-5



35-8



35-5



35-8



35-6



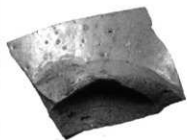
35-7



35-6



35-7



35-10



35-11



35-10



35-9

報告書抄録

ふりがな	きたのまえいせきびいく							
書名	北の前遺跡 (B区)							
副書名								
シリーズ名	宇都宮市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第82集							
編著者名	石川和弘・水野順敏							
編集機関	株式会社 日本産業史研究所							
所在地	〒324-0611 栃木県那須郡那珂川町小砂3112 TEL 0287-93-0711							
発行機関	宇都宮市教育委員会							
所在地	〒320-8540 栃木県宇都宮市旭1-1-5 TEL 028-632-2764							
発行年月日	2013年6月30日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きたのまえいせきびいく 北の前遺跡(B区)	うつのみやしのかみこまつねのう 宇都宮市上戸祭町 あざきたのまえ 字北の前	9201	2260	36° 35' 34"	139° 52' 2"	2013. 1. 5~ 2013. 2. 11	約500㎡	宅地開発
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
北の前遺跡	集落跡	・縄文時代 ・古墳～平安時代 ・中世	・ ・竪穴住居跡 12軒 掘立柱建物跡 5棟 土坑 17基 小穴 約90基 ・	・土器、石器 ・土師器、須恵器、瓦、 墨書土器、磁用硯、 鉄製品、砥石 ・白磁、妬器、内耳土器、カワラケ		遺跡の南寄りには古代の集落の密度が疎になるかと推定されていたが、南端部にあたる当地も密度の高い集落跡であった。		

宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第82集

北の前遺跡 (B区)

発行年月日 平成25年6月30日

編集 株式会社 日本産業史研究所

〒324-0611 栃木県那須郡那珂川町小砂3112

TEL 0287-93-0711

発行 宇都宮市教育委員会文化課

〒320-8540 栃木県宇都宮市旭1-1-5

TEL 028-632-2764

印刷 株式会社 松井ビ・テ・オ・印刷

〒321-0904 栃木県宇都宮市陽東5-9-21

TEL 028-662-2511